

Ⅱ 地震・津波被害想定

1. 被害想定の対象とする地震・津波の設定

1.1 被害想定の対象地震

被害想定の対象地震は、香川県で影響が予想される地震として、地震の発生が切迫している海溝型の南海トラフ地震と香川県内に影響を与える直下型の地震を選定した。

海溝型地震は、内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会」で対象となっている断層モデル（「南海トラフの最大クラスの地震」及び「南海トラフの発生頻度の高いもの」）が提示または検討されているものを採用した。南海トラフ地域は、宝永地震（1707）、安政東海・安政南海地震（1854）、昭和東南海（1944）など、100年から200年の間隔で発生しており、発生すると大きな被害が出ると予測されている。

直下型地震については、文部科学省地震調査研究推進本部において、全国に存在する約2,000の活断層の内、活動性が高く、社会的、経済的に大きな影響を与えると考えられる断層帯を選定した。想定地震の設定では、「震源断層を特定した地震」より主要活断層帯が明確になっており、香川県に影響を与える「中央構造線で発生する地震」と「長尾断層で発生する地震」を採用した。

表 1.1.1 被害想定の対象地震

タイプ	海溝型地震		直下型地震	
	南海トラフ		中央構造線	長尾断層
震源域	最大クラス (L2)	発生頻度の高いもの (L1)		
地震	○ (Mw9.0)	○ (宝永 Mw8.9、安政 Mw8.8)	○ (M8.0)	○ (M7.1)
津波	○ (Mw9.1)		—	—

注：Mw：モーメントマグニチュード M：マグニチュード

2. 地震動の予測

2.1 震源モデル（強震断層モデル）の設定

2.1.1 南海トラフの最大クラスの地震

南海トラフの最大クラスの地震は、内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会」で示された強震断層モデルの4ケース（基本・東側・西側・陸側）を採用した。

発生頻度は、千年に一度あるいはそれよりもっと低い頻度で発生するが、発生すれば、甚大な被害をもたらす最大クラスの地震である。

地震動の予測を行うモデルとしては、4ケースのモデルごとに震度を算出し、各地点の最大値を採用した。

2.1.2 南海トラフの発生頻度の高い地震

南海トラフの発生頻度の高い地震は、最新の知見に基づいた強震断層モデルを踏まえたケースを採用した。

発生頻度の高いものとは、一定の頻度（数十年から百数十年に一度程度）で発生し、南海トラフの最大クラスの地震に比べ、規模（震度や津波高）は小さいものの、大きな被害をもたらす地震としている。

地震動の予測を行うモデルとしては、既往地震の断層諸元を基に設定している。

2.1.3 中央構造線で発生する地震

中央構造線は、関東から中部・近畿地方、淡路島南部の海域を経て、四国北部を東西に横断し、九州まで達する長大な断層帯である。このうち、対象とする断層は、讃岐山脈南縁から石鎚山脈北縁東部に位置する断層（長さ約130km）である。

発生頻度は、1千年～1千6百年に一度となっている。

地震動の予測を行うモデルとしては、文部科学省地震調査研究推進本部が設定した断層4ケースのモデルごとに震度を算出し、各地点の最大値を採用した。

2.1.4 長尾断層で発生する地震

長尾断層で発生する地震は、讃岐山脈の北縁に分布する活断層帯で、香川県さぬき市から高松市南部を経て高松市香南町に至り、長さは約24km、概ね東西方向に延びており、断層の南側が北側に対して相対的に隆起する逆断層である。

発生頻度は、3万年に一度となっている。

地震動の予測を行うモデルとしては、文部科学省地震調査研究推進本部が設定した断層3ケースのモデルごとに震度の算出し、各地点の最大値を採用した。

2.2 予測手法

震度予測は、「2.1 震源モデル（強震断層モデル）の設定」で設定した震源から、地下30mまでの平均S波速度（AVS30）と震度増分の関係式を用いて、地表における計測震度を算出した。

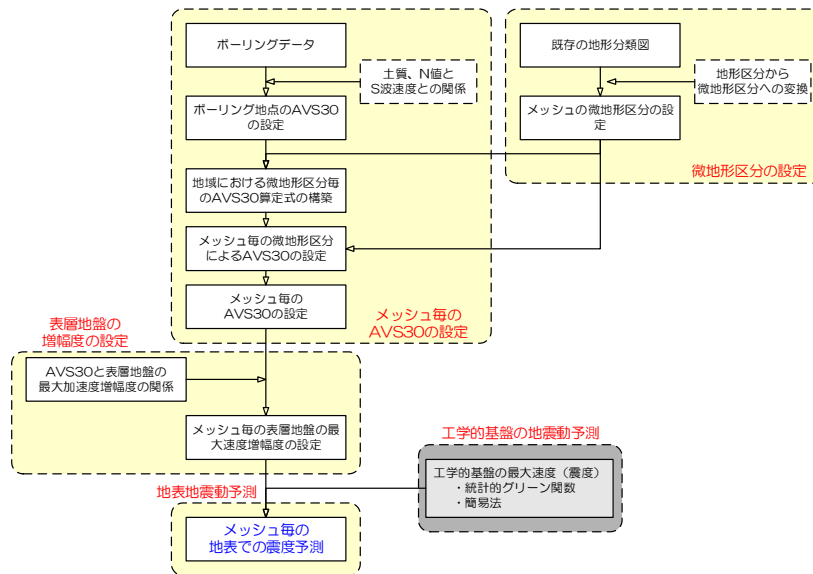


図 2.2.1 震度予測モデル・手法の概要

(1) 地表での震度予測

地表の計測震度の算出は、内閣府の工学的基盤面における計測震度から、浅部地盤で増幅される計測震度の増分を加えて算出した。

地表計測震度 = 工学的基盤の計測震度 + 計測震度増分 (ΔI)

$$\Delta I = 2.888 - 1.015 \cdot \text{Log}(\text{AVS30})$$

$$\text{AVS30} = a_n \cdot \text{AVS}_n + b_n$$

$$n : 10, 15, 20, 25$$

a_n, b_n : AVS_n と AVS30 の回帰式の係数

2.3 震度分布予測結果

南海トラフの最大クラスの地震及び発生頻度の高い地震、中央構造線・長尾断層で発生する地震の震度分布図を作成した。

また、「どこでも起こりうる直下型地震」の震度分布図及び「ゆれやすさマップ」も併せて作成した。

「どこでも起こりうる直下型地震」については、直下型地震は現在知られていない断層で発生する場合があります、この未知の断層に対する危険性を知るために、全県の直下を断層と仮定し、一律マグニチュード6.9の地震が発生したと仮定した場合の震度分布を示したものである。

「ゆれやすさマップ」については、地震による地表での揺れは地震の規模（マグニチュード）、震源からの距離、表層の地盤の固さ・柔らかさなどによって変わるため、マグニチュードや震源からの距離は同じでも、表層の地盤が柔らかいとゆれやすくなることから、表層の地盤の固さ・柔らかさを示したものである。

2.3.1 南海トラフの最大クラスの地震

南海トラフの最大クラスの地震は、震度 6 弱～6 強の強い揺れが広く分布し、また、観音寺市・東かがわ市・三豊市の一部の地域で震度 7 の揺れが分布しているため、被害の範囲が県内全域に及ぼす可能性がある。

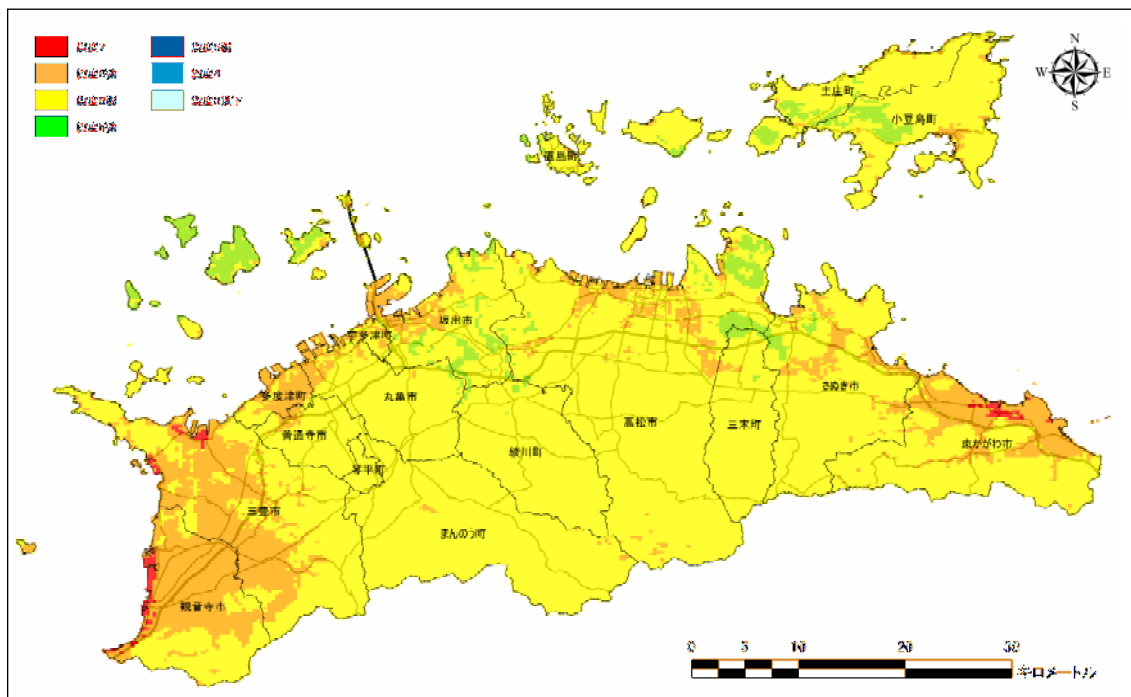


図 2.3.1 南海トラフ (L2)

2.3.2 南海トラフの発生頻度の高い地震

南海トラフの発生頻度の高い地震は、震度 4～6 弱が分布しているが、被害の範囲は集中する可能性がある。

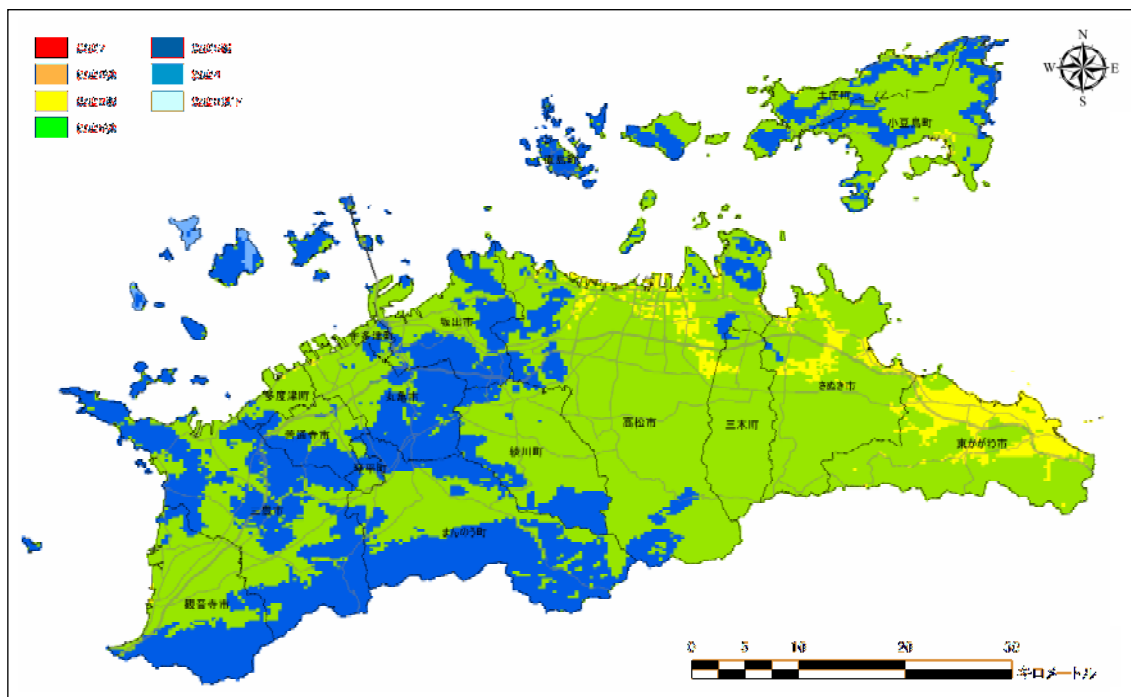


図 2.3.2 南海トラフ (L1)

2.3.3 中央構造線で発生する地震

中央構造線で発生する地震は、震度 4~7 が分布しているが、被害の範囲は島嶼部を除く地域で震度 6 弱~7 の強い揺れが広く分布しているため、被害の範囲が広がる可能性がある。

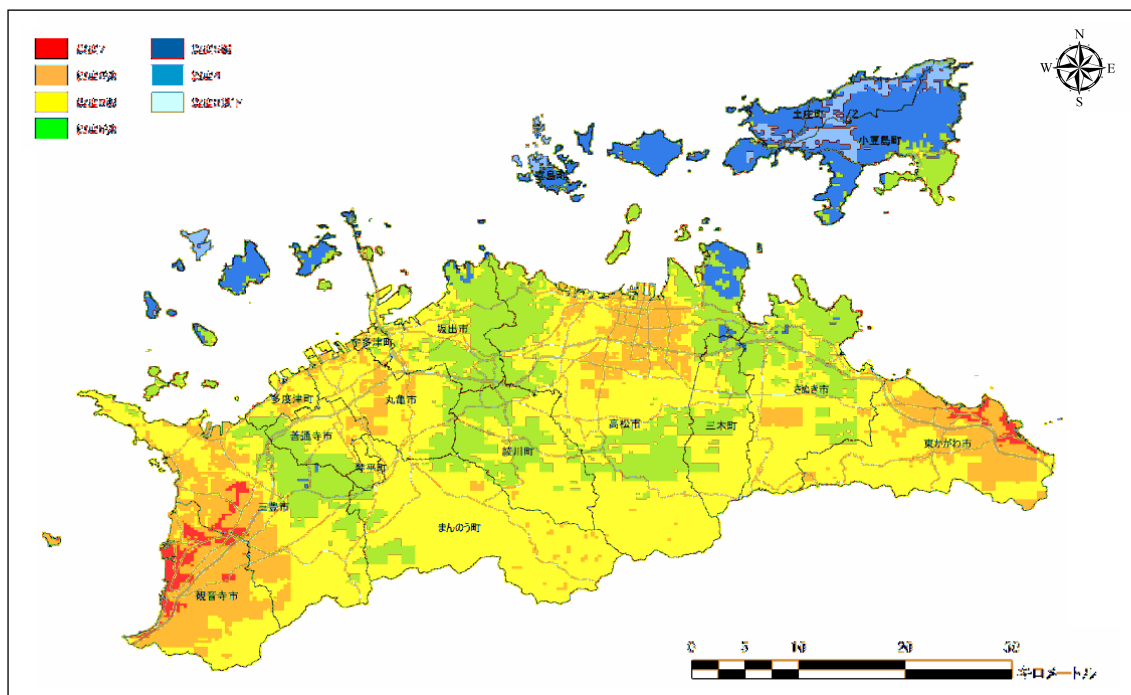


図 2.3.3 中央構造線

2.3.4 長尾断層で発生する地震

長尾断層で発生する地震は、震度 4~6 強が分布しているが、被害の範囲は想定断層付近に集中する可能性がある。

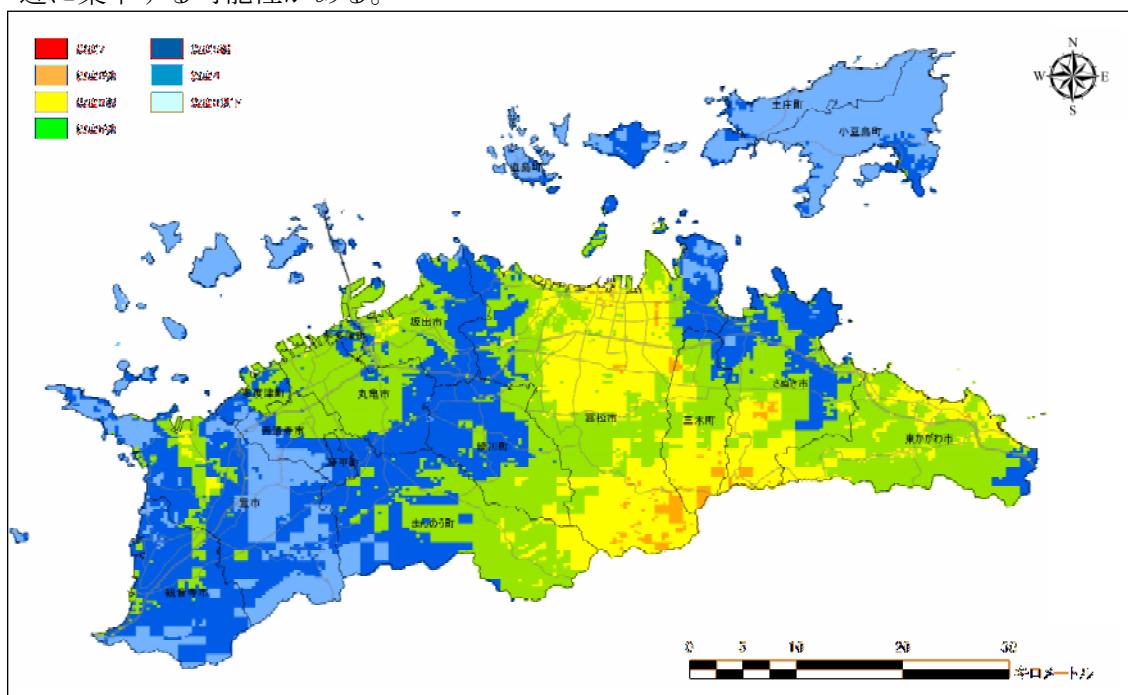


図 2.3.4 長尾断層

2.3.5 どこでも起こりうる直下型地震（参考）

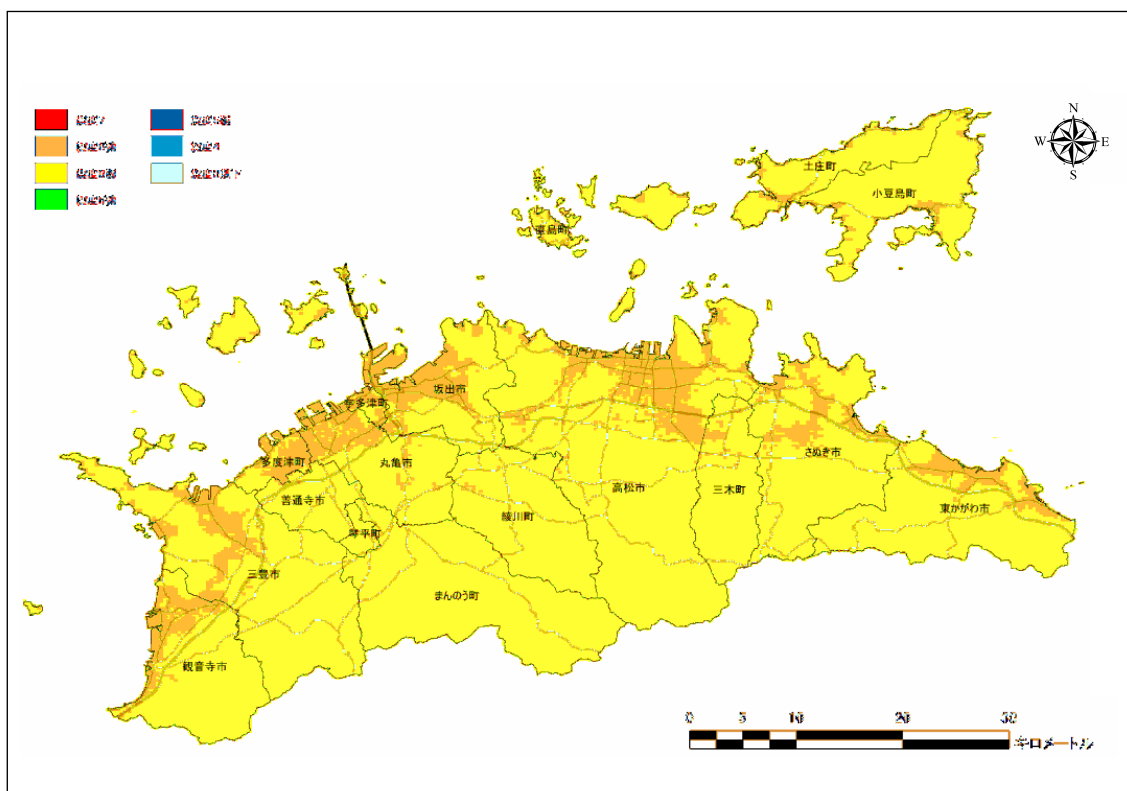


図 2.3.5 どこでも起こりうる直下型地震

2.3.6 ゆれやすさマップ（参考）

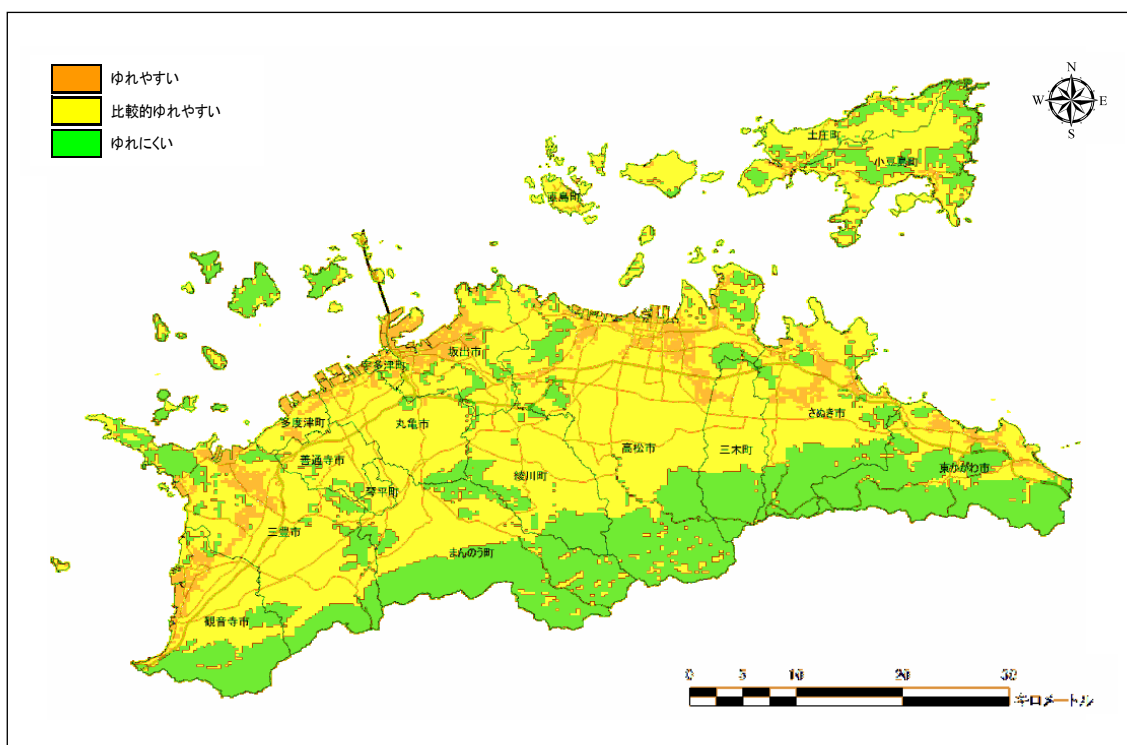


図 2.3.6 ゆれやすさマップ

3. 液状化危険度の予測

3.1 予測手法

(1) 液状化危険度の予測

液状化危険度の予測は、「道路橋示方書・同解説（2002年3月発行）」による、砂質土層の液状化の判定手法を採用しました。すなわち、地震動の予測結果から地表から20mまでの地中のせん断応力（L）と液状化対象層の繰返三軸強度比（R）を求め、液状化対象層ごとに液状化に対する抵抗率（ $F_L=R/L$ ）を求め、さらに地層全体の液状化可能性指数（ P_L ）を評価した。

表 3.1.1 液状化可能性判定基準

危険度ランク	P_L 値	説明
A	$15 < P_L$	<ul style="list-style-type: none">・液状化危険度が極めて高い。・液状化に関する詳細な調査と液状化対策は不可避
B	$5 < P_L \leq 15$	<ul style="list-style-type: none">・液状化危険度が高い。・重要な構造物に際して、より詳細な調査が必要。液状化対策が一般に必要。
C	$0 < P_L \leq 5$	<ul style="list-style-type: none">・液状化危険度は低い。・特に重要な構造物の設計に際してはより詳細な調査が必要。
D	$P_L=0$	<ul style="list-style-type: none">・液状化危険度はかなり低い。

3.2 液状化危険度予測結果

南海トラフの最大クラスの地震及び発生頻度の高い地震、中央構造線・長尾断層で発生する地震の液状化危険度分布図を作成した。

この液状化危険度は、液状化の発生を予測する一定の目安であり、判定結果で危険度が高い地域（危険度AあるいはB）であっても、全域が必ず液状化するというものではないが、重要な構造物等を設計する際には液状化に関する詳細な調査及び対策が必要である。

3.2.1 南海トラフの最大クラスの地震

液状化の危険度は三角州・後背湿地・埋立地などの柔らかい地盤と地表加速度が影響するため、液状化危険度の分布は県内全域に広く分布している。

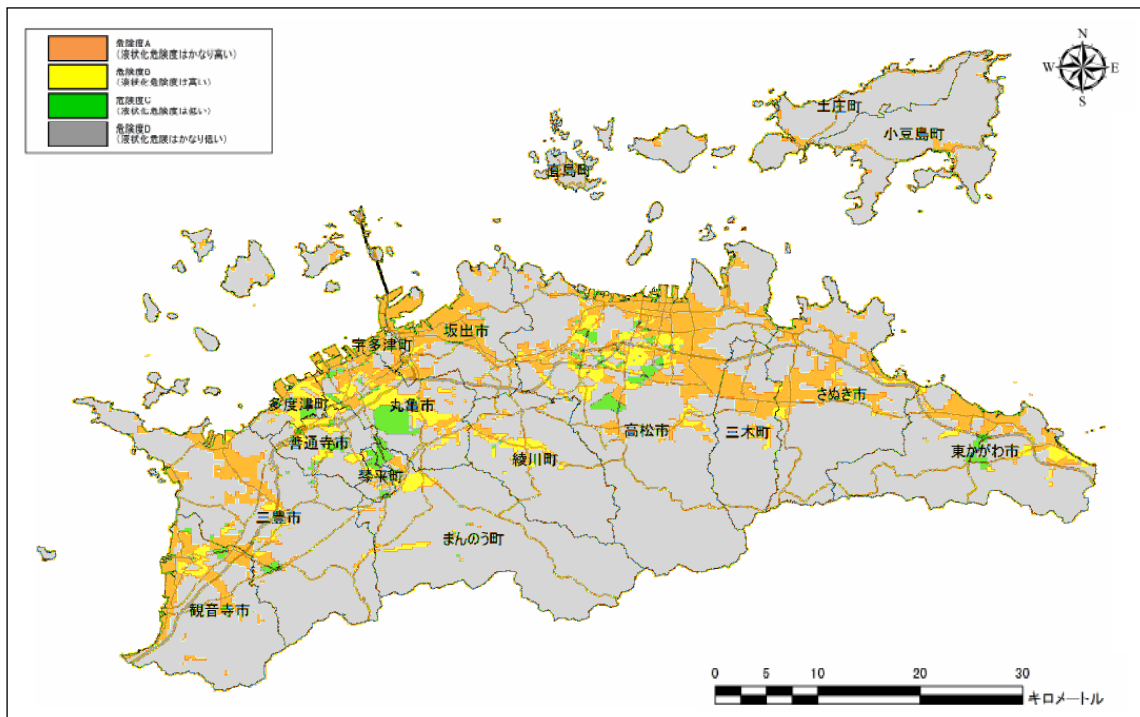


図 3.2.1 南海トラフ (L2)

3.2.2 南海トラフの発生頻度の高い地震

液状化の危険度は三角州・後背湿地・埋立地などの柔らかい地盤と地表加速度が影響するため、液状化危険度の分布は南海トラフ (L2) に比べ規模は小さいものの県内全域に広く分布している。

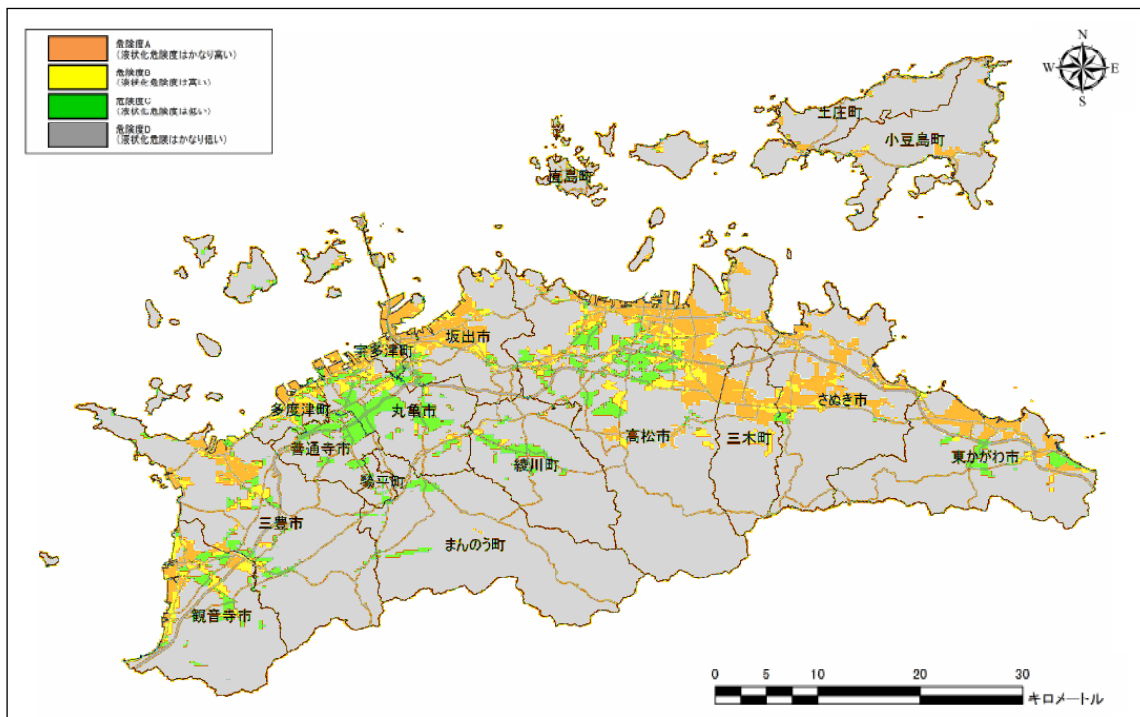


図 3.2.2 南海トラフ (L1)

3.2.3 中央構造線で発生する地震

液状化の危険度は三角州・後背湿地・埋立地などの柔らかい地盤と地表加速度が影響するため、液状化危険度の分布は島嶼部を除く地域で広く分布している。

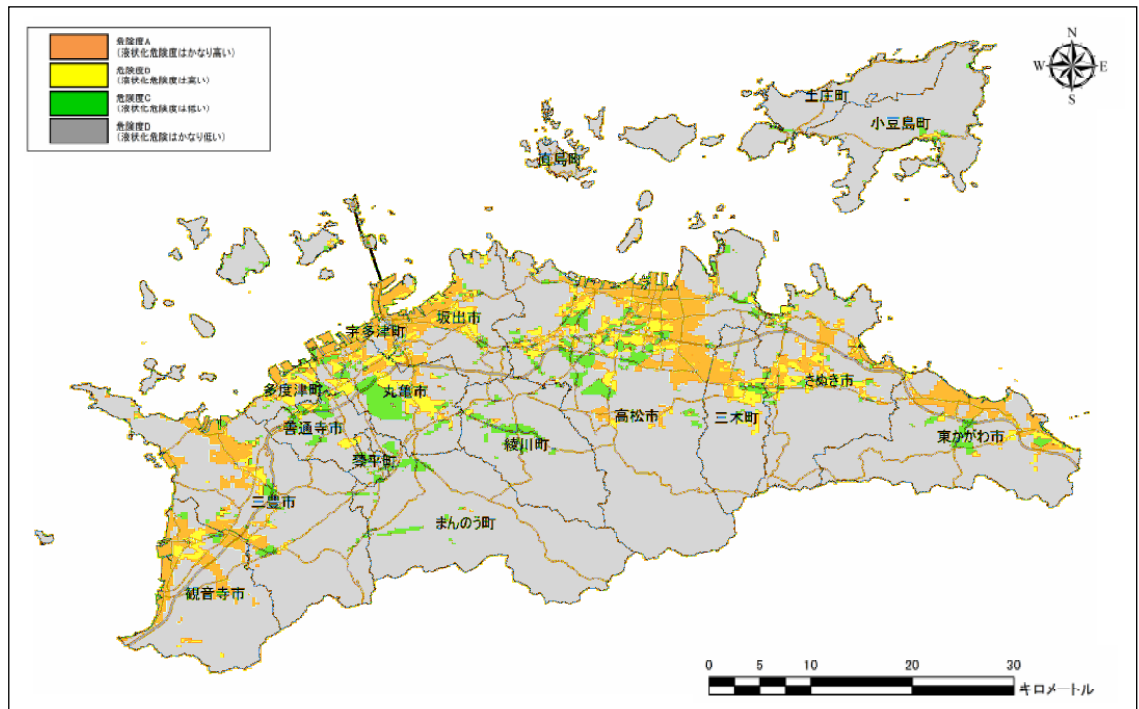


図 3.2.3 中央構造線

3.2.4 長尾断層で発生する地震

液状化の危険度は三角州・後背湿地・埋立地などの柔らかい地盤と地表加速度が影響するため、液状化危険度の分布は想定断層付近に集中している。

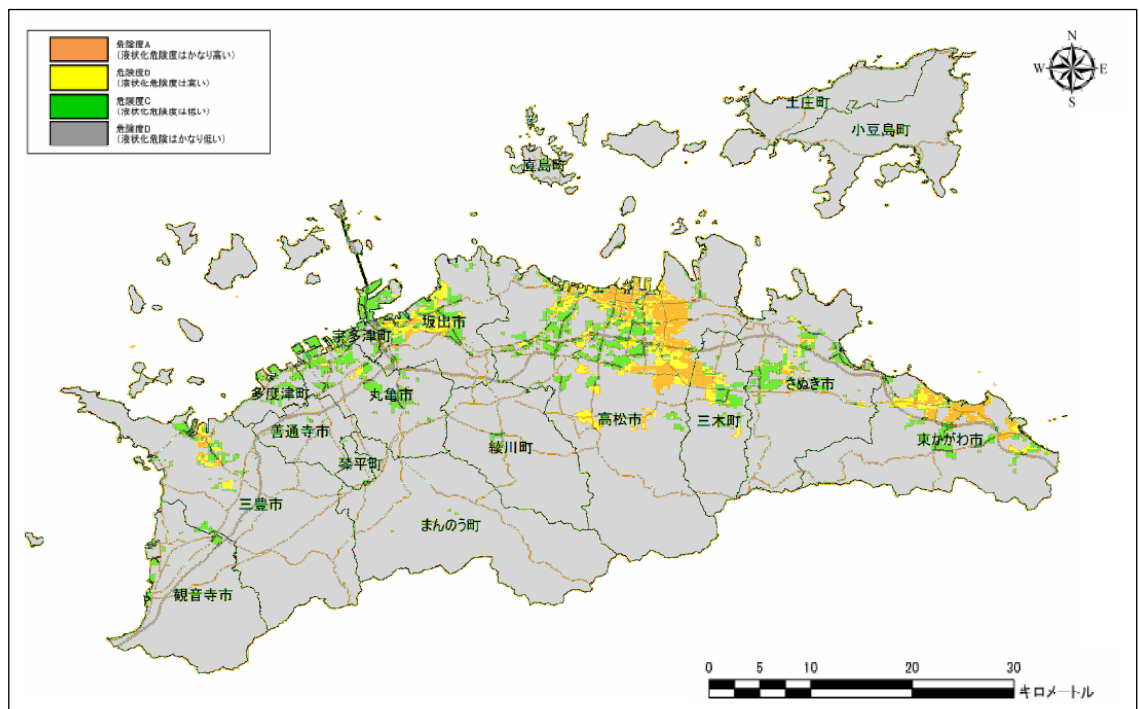


図 3.2.4 長尾断層

4. 津波浸水の予測

4.1 波源モデルの設定

4.1.1 南海トラフの最大クラスの津波

最大クラスの想定震源域・想定津波波源域は、最新の科学的知見をもとに設定している内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会」で示されたものを採用した。

香川県では、内閣府で公表された津波断層モデルで示された 11 ケースのうち、香川県の沿岸域において高い津波水位となる 5 ケースを採用した。

4.1.2 南海トラフの発生頻度の高い津波

発生頻度の高い津波の津波断層モデルは、内閣府で公表された津波断層モデルで示された 4 ケースのうち、香川県の沿岸域において高い津波水位となるケースを採用した。

4.2 予測手法（シミュレーション条件）

4.2.1 津波シミュレーションの概要

南海トラフで大地震が発生すると、海底の断層運動により断層面を境に海底に大きな隆起箇所や沈降箇所が生じる。この流域・沈降に伴い海面が変動することで大きな波が発生し、これが四方八方に伝播するものが津波である。

津波シミュレーションは、地震発生時に生じる海域での隆起・沈降現象により生じる波が海岸に伝播する過程をコンピュータ上で計算するものである。

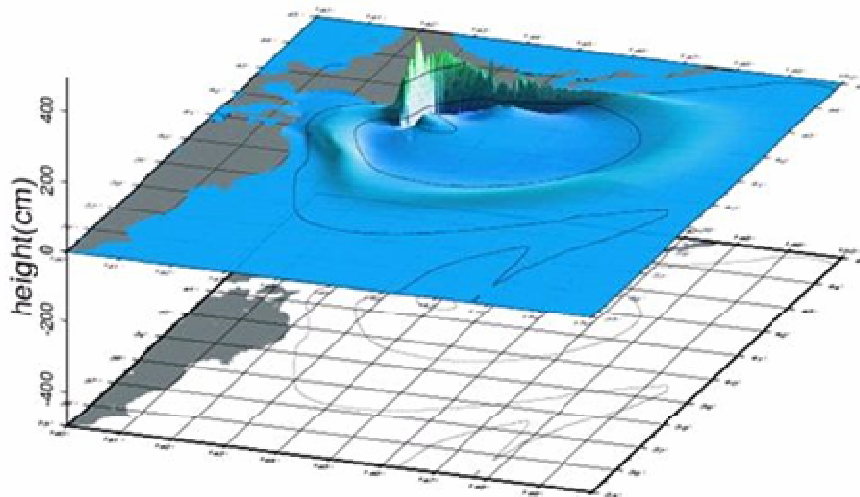


図 4.2.1 津波シミュレーションのイメージ

4.2.2 南海トラフの最大クラスの津波の条件

南海トラフの最大クラスの津波のシミュレーション条件は下記のとおり設定した。

表 4.2.1 津波シミュレーションの主な条件

項目		シミュレーションの条件
潮位	海域	・ 朔望平均満潮位の統計値（過去5年間）及び港湾構造物設計に用いる朔望平均満潮位のうち高い方
	河川	・ 平水流量又は沿岸の朔望平均満潮位と同じ水位
地盤高		・ 地震による地殻変動は、海域は隆起・沈降を考慮し、陸域は、隆起は考慮せず、沈降のみを考慮 ・ 液状化による陸域の沈降量を考慮
堤防などの構造物		・ 河川・海岸等の構造物は、盛土構造物（土で築造された堤防等）は75%沈下、コンクリート構造物は100%沈下 ・ 津波が堤防等の構造物を乗り越えた場合、破壊すると仮定

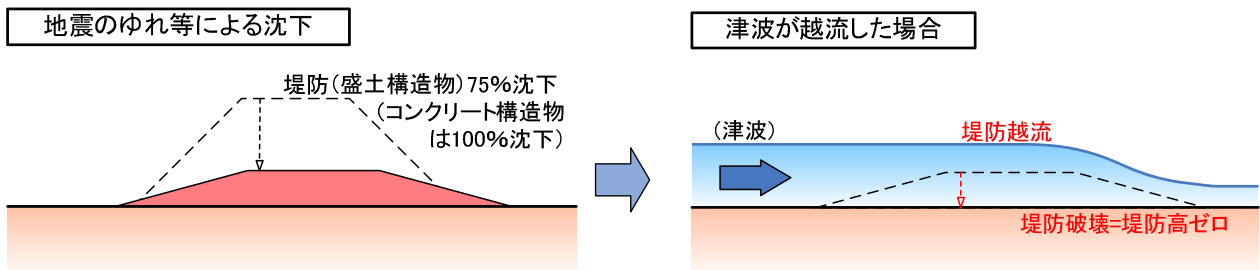


図 4.2.2 堤防などの構造物の取り扱い

4.2.3 南海トラフの発生頻度の高い津波の条件

南海トラフの発生頻度の高い津波のシミュレーション条件は下記のとおり設定した。

表 4.2.2 津波シミュレーションの主な条件

項目		シミュレーションの条件
潮位	海域	・ 朔望平均満潮位の統計値（過去5年間）及び港湾構造物設計に用いる朔望平均満潮位のうち高い方（最大クラスと同じ）
	河川	・ 平水流量又は沿岸の朔望平均満潮位と同じ水位（最大クラスと同じ）
地盤高		・ 地震による地殻変動は、海域は隆起・沈降を考慮し、陸域は、隆起は考慮せず、沈降のみを考慮（最大クラスと同じ） ・ 液状化による陸域の沈降量は考慮しない
堤防などの構造物		・ 河川・海岸等の構造物の沈下は、見込まない ・ 津波が堤防等の構造物を乗り越えた場合、破壊すると仮定（最大クラスと同じ）

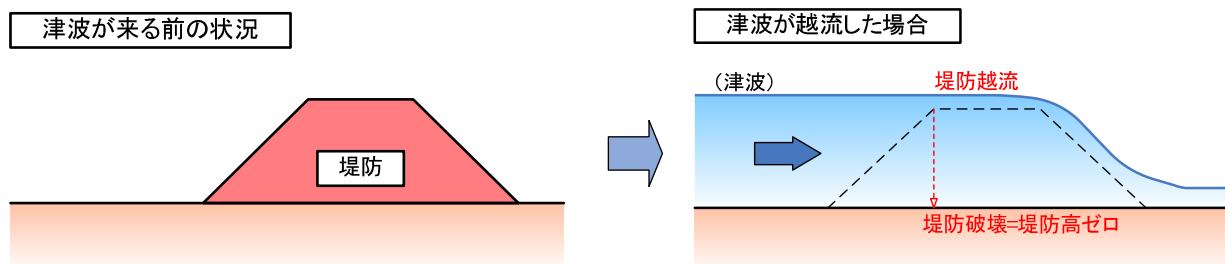


図 4.2.3 堤防などの構造物の取り扱い

4.3 浸水予測結果

4.3.1 南海トラフの最大クラスの地震の津波

(1) 津波の概要

南海トラフで最大クラスの地震が発生すると、地殻の変動域に位置する香川県では、地震により地盤沈降が発生し、津波が来襲する前に海面変動が生じる。その後、南海トラフで発生する津波は沿岸域から、紀伊水道、豊後水道を通じて瀬戸内海に侵入し、地震発生後約1時間で第1波が鳴門海峡を通過し、東かがわ市に到達する。豊後水道から進入した津波は、佐田岬、芸予諸島の影響で地震発生後3時間40分頃観音寺市に到達する。

最大津波波高が発生した後、津波は6時間を過ぎても断続的に来襲し、海面変動は半日経過しても生じている。

最高津波水位を見ると、沿岸域に3m～4mの津波が来襲するため、被害の範囲が広く及ぶ可能性がある。

(2) 津波浸水区域想定図

津波浸水想定図は、採用モデルにおける浸水深（浸水する深さ）の最大値の想定図としている。なお、この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25,000（地図画像）を複製したものである。（承認番号 平成24情複、第930号）(C)Esri Japan

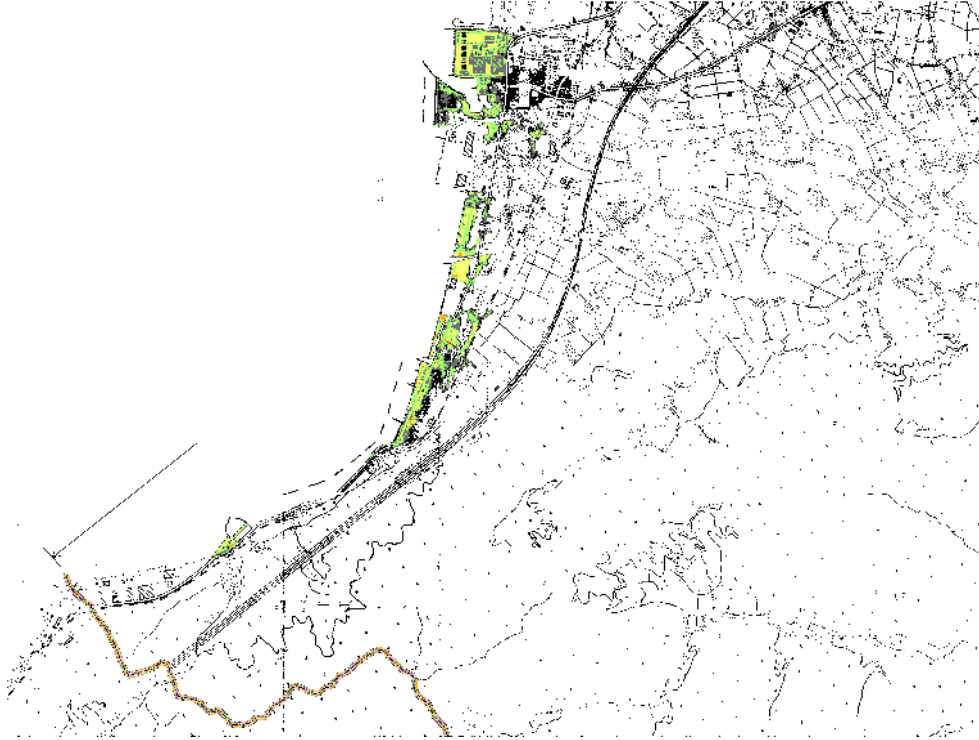


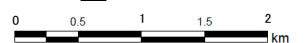
图 4.3.1 观音寺市①



图 4.3.2 观音寺市②・伊吹島

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



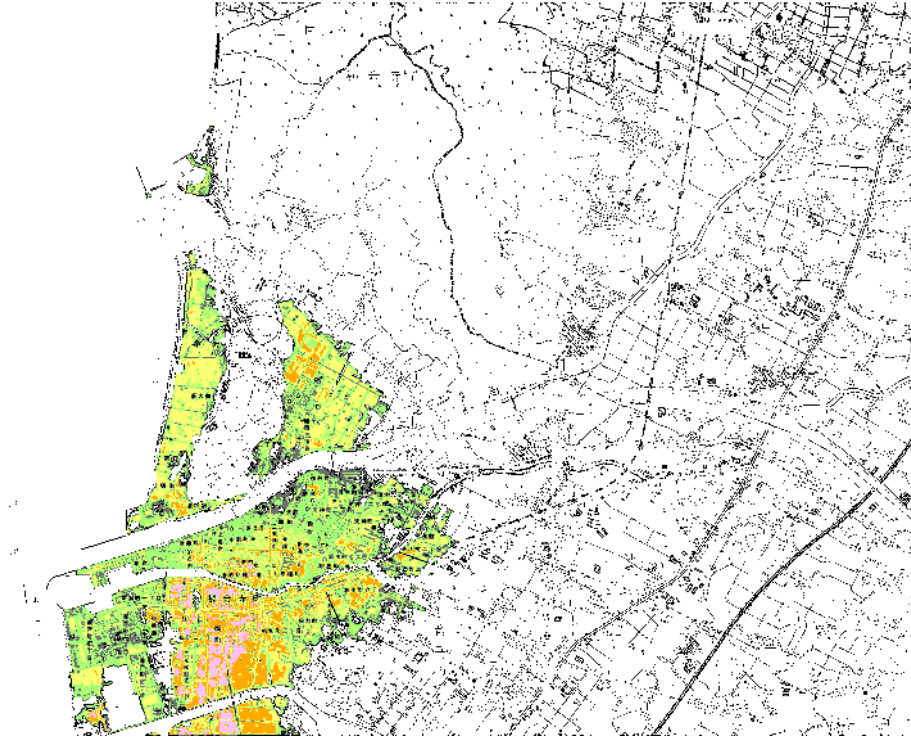


图 4.3.3 观音寺市③

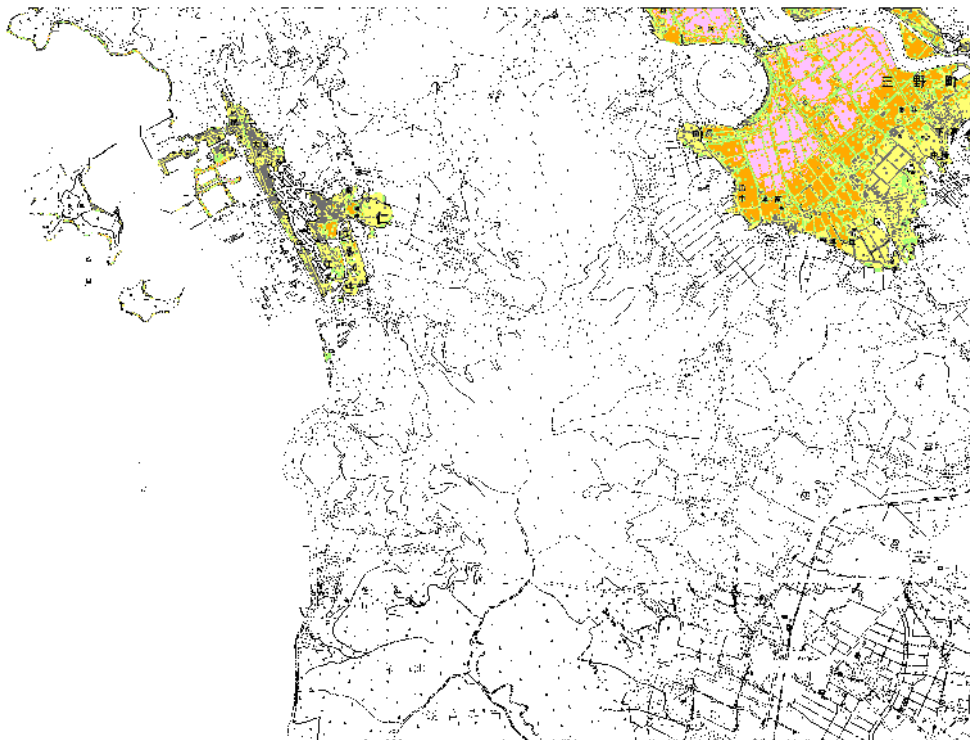


图 4.3.4 三豊市①

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3

0 0.5 1 1.5 2 km

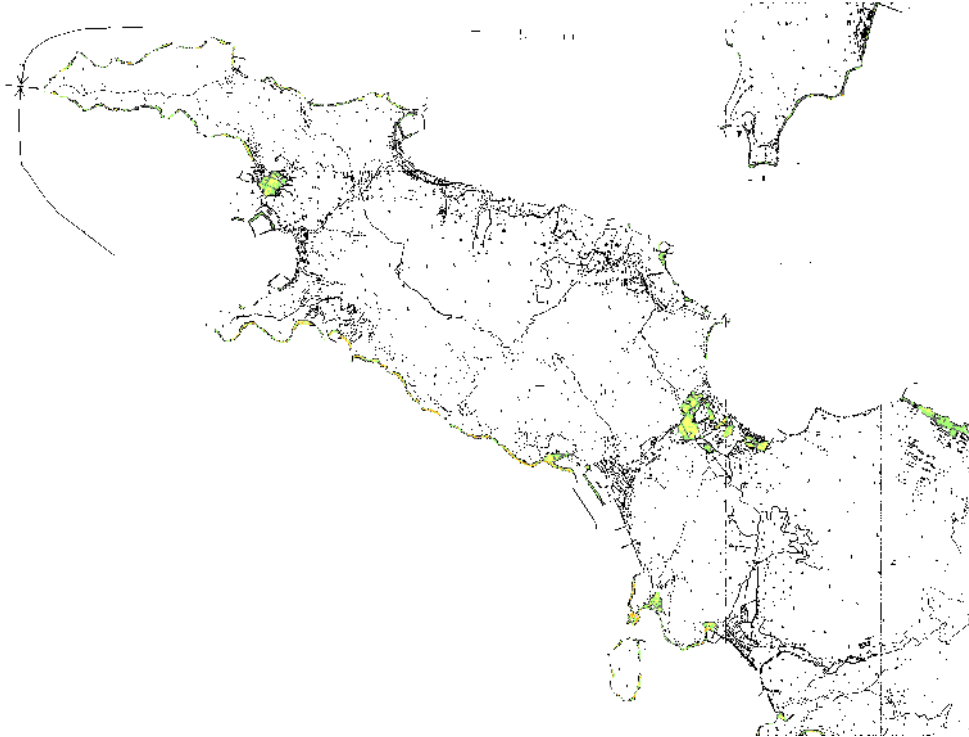


图 4.3.5 三豊市②



图 4.3.6 三豊市③

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



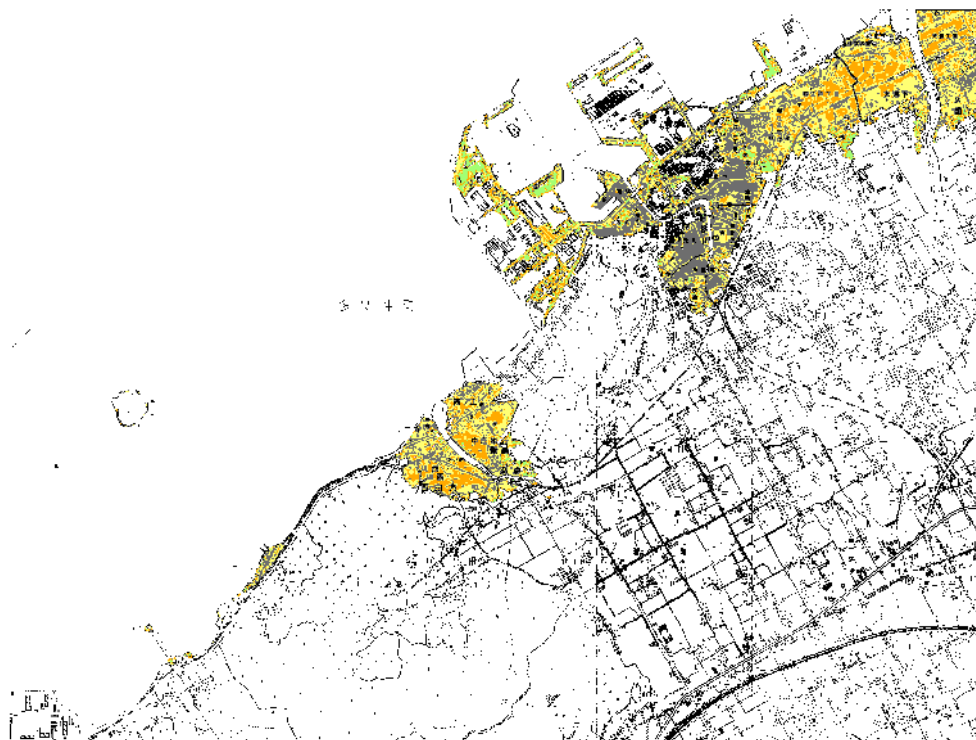


图 4.3.7 多度津町



图 4.3.8 丸龜市・宇多津町①

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3





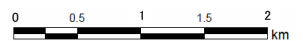
图 4.3.9 宇多津町②・坂出市①



图 4.3.10 坂出市②

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



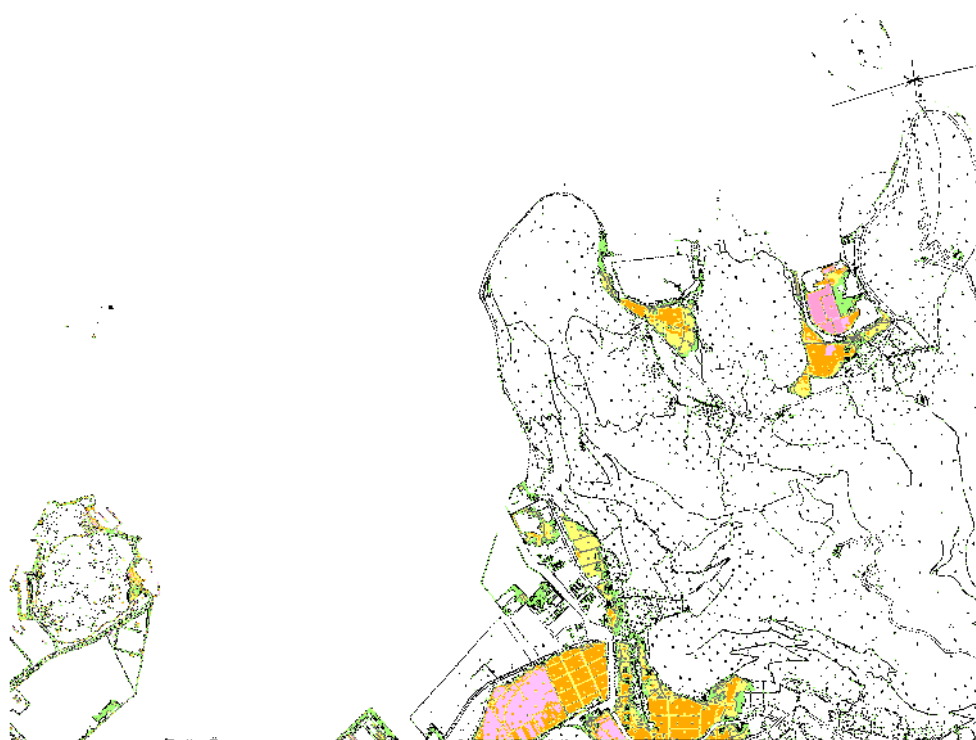


图 4.3.11 坂出市③

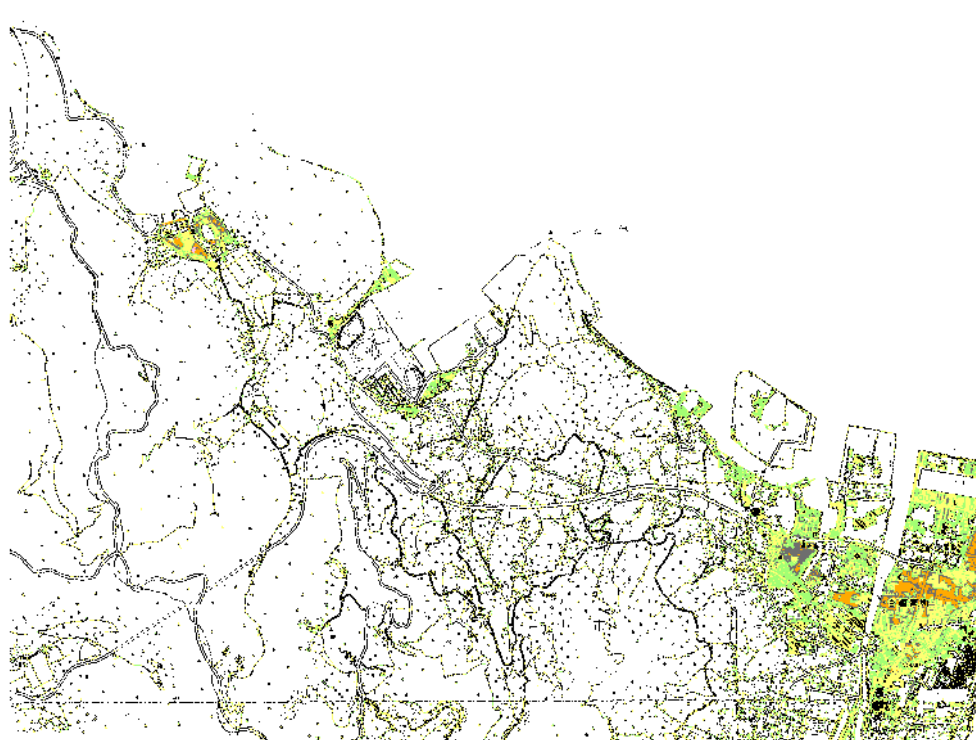


图 4.3.12 高松市①

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3





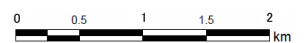
图 4.3.13 高松市②



图 4.3.14 高松市③

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



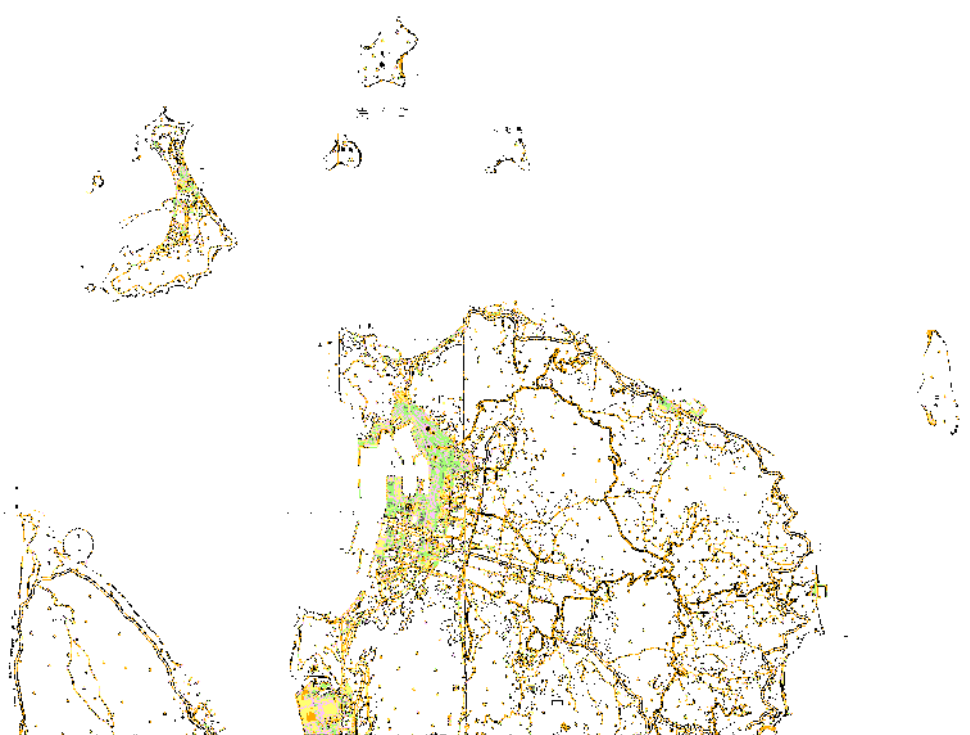


图 4.3.15 高松市④

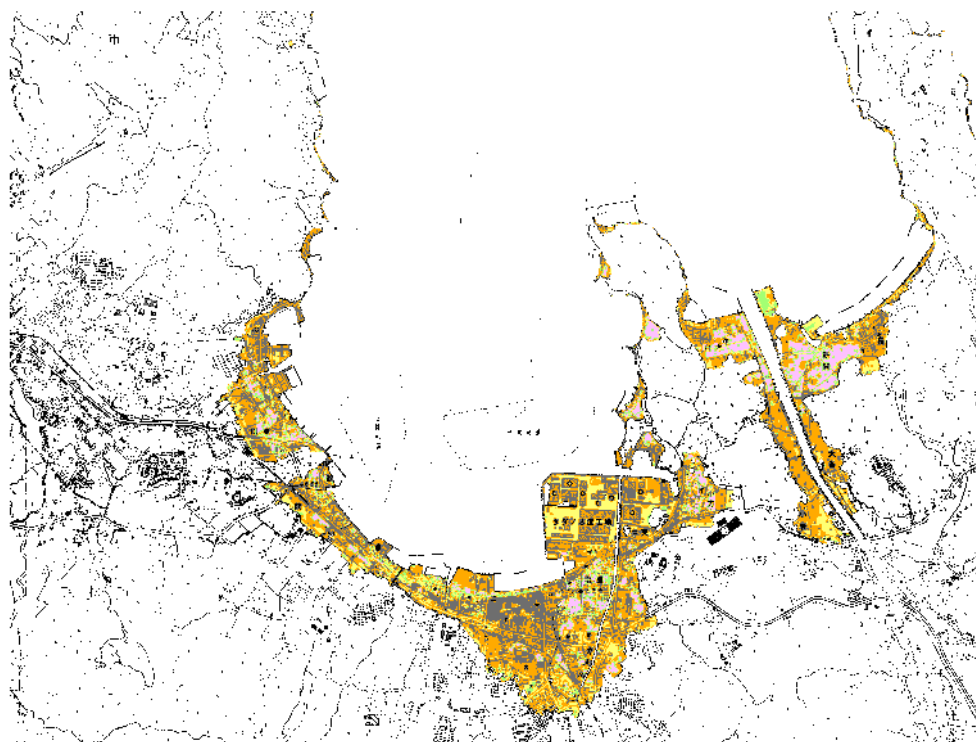


图 4.3.16 高松市⑤・さぬき市①

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3

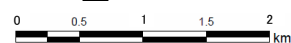




図 4.3.17 さぬき市②

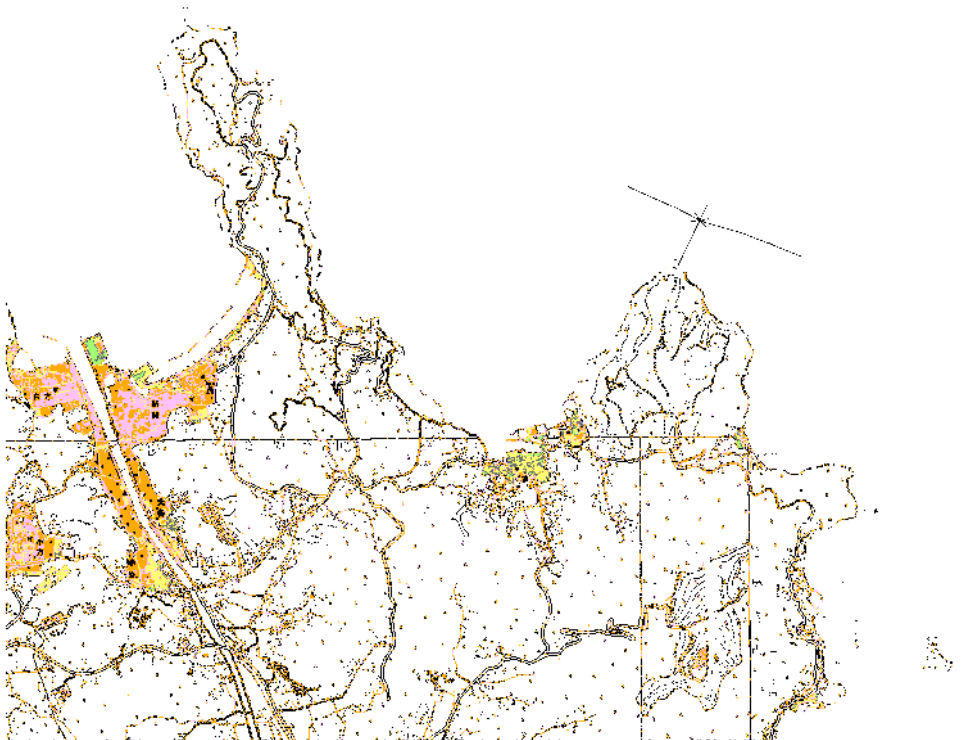
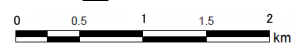


図 4.3.18 さぬき市③

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



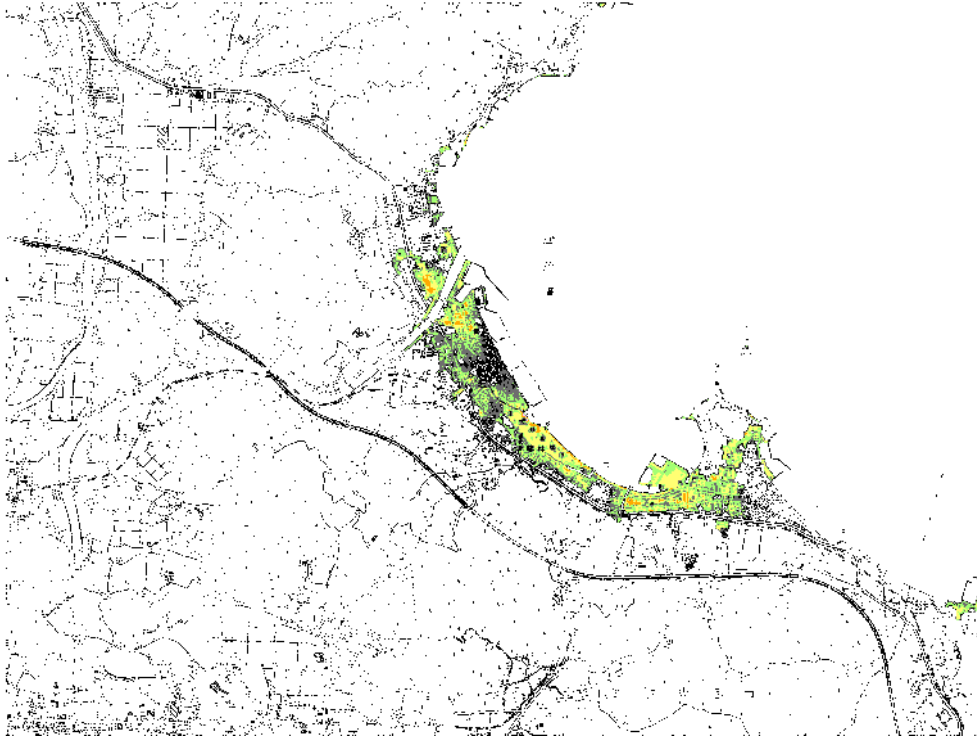


図 4.3.19 さぬき市④



図 4.3.20 東かがわ市①

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



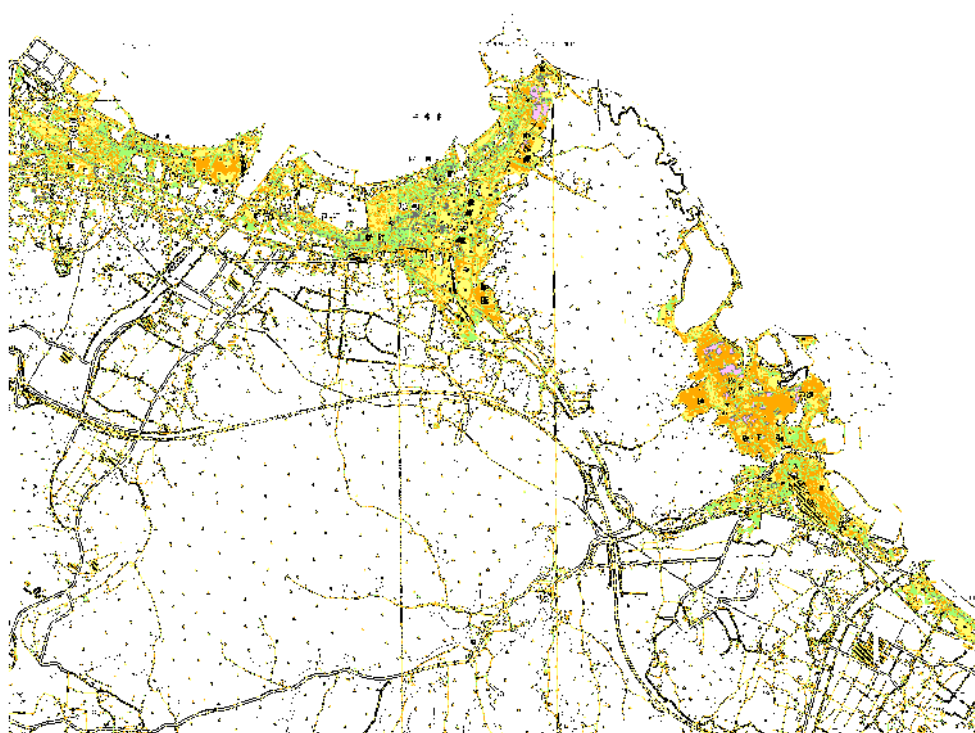


図 4.3.21 東かがわ市②

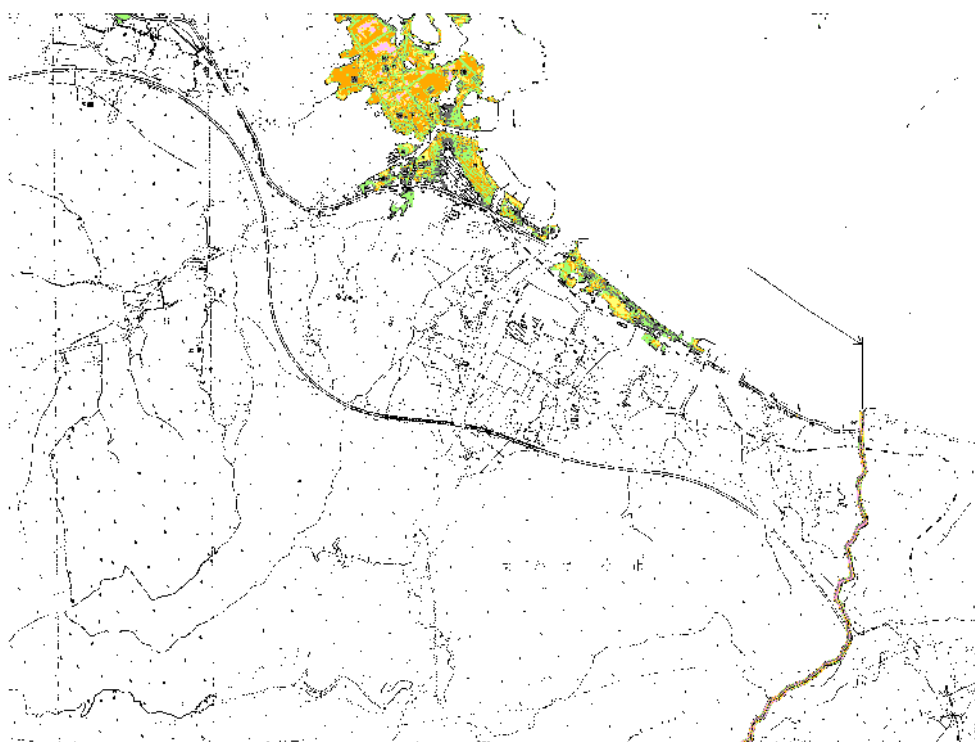


図 4.3.22 東かがわ市③

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3





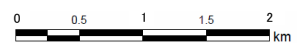
図 4.3.23 三豊市島しょ部



図 4.3.24 多度津町島しょ部

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



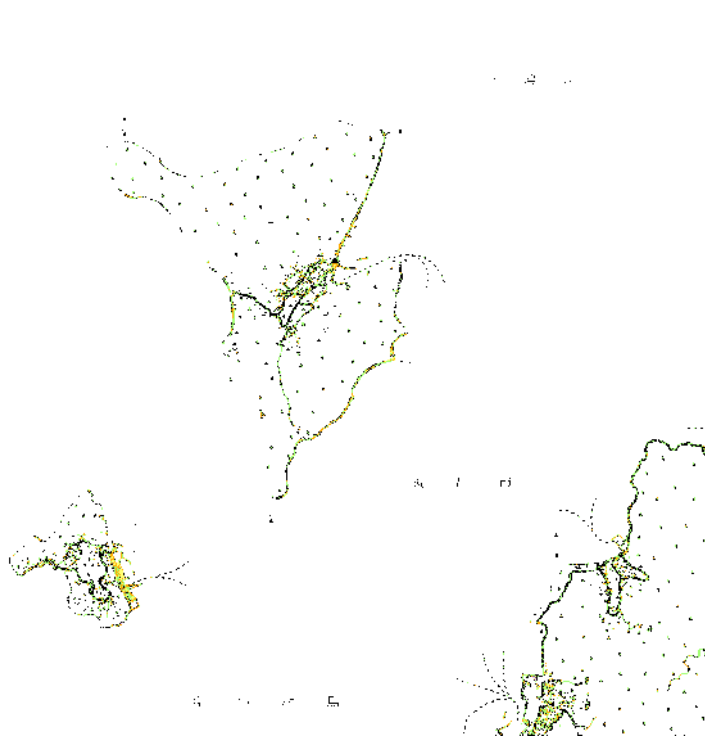


図 4.3.25 丸亀市島しょ部①

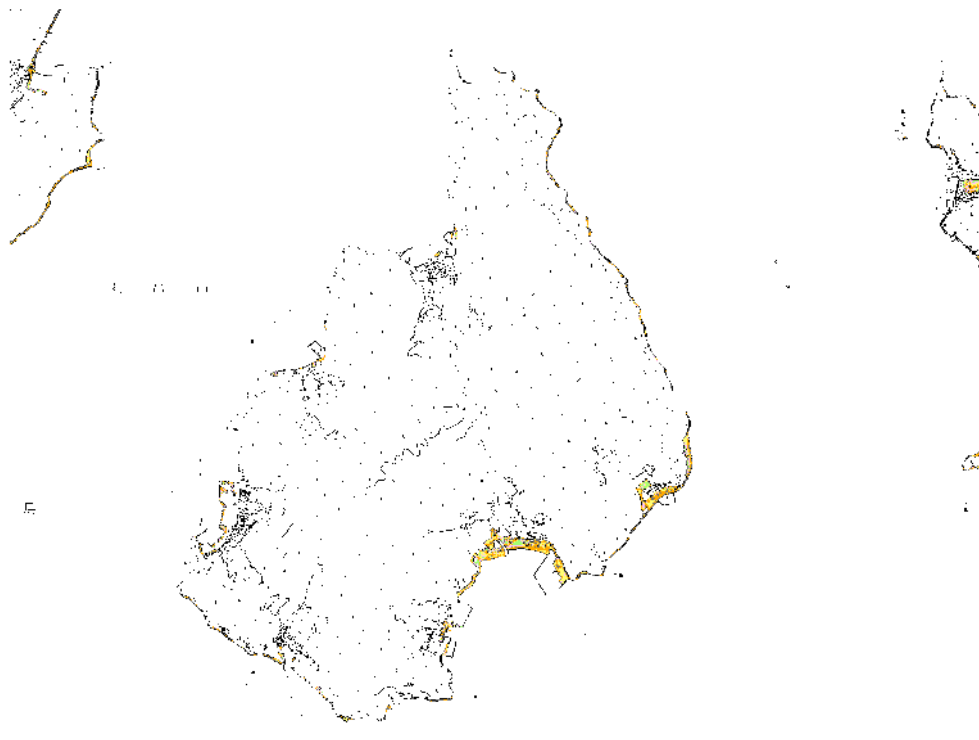


図 4.3.26 丸亀市島しょ部②

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



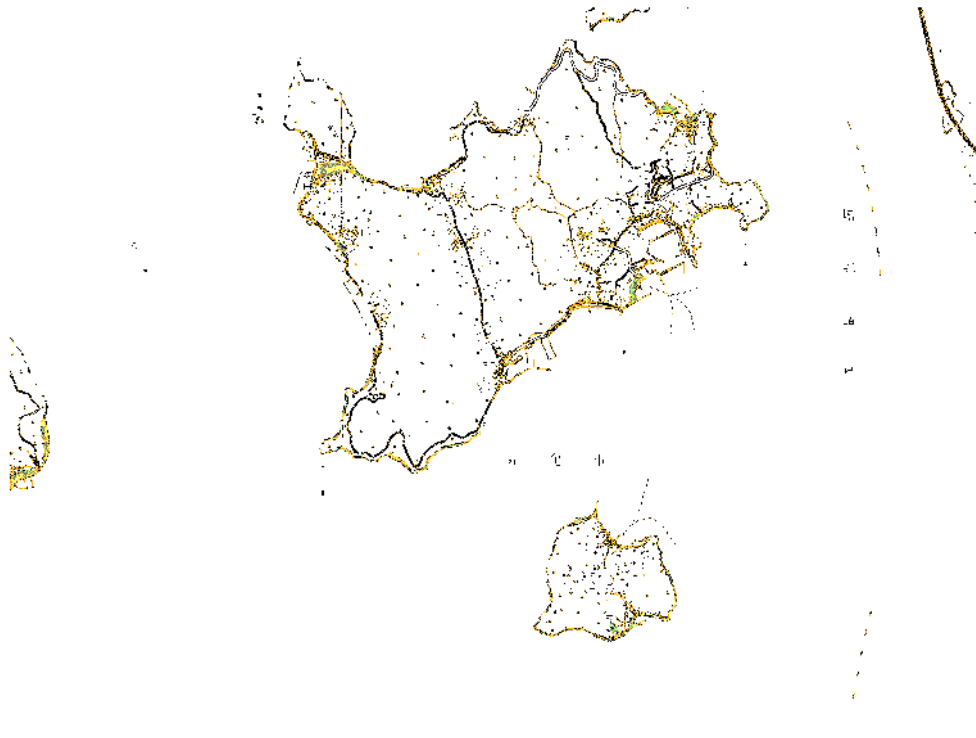


図 4.3.27 丸亀市島しょ部③



図 4.3.28 坂出市島しょ部

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



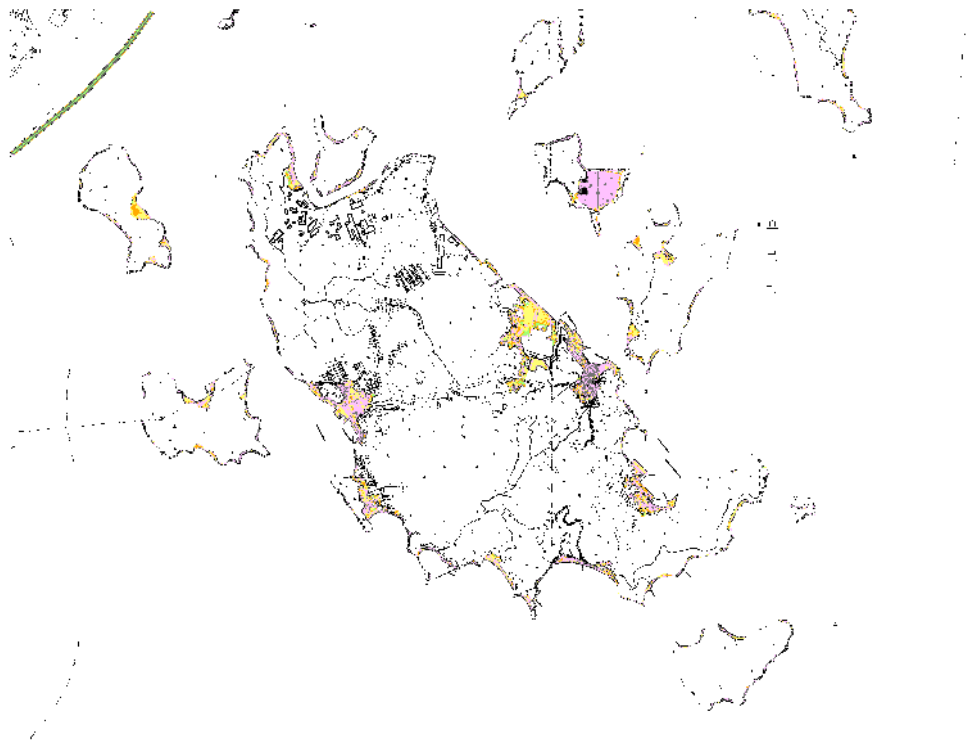


图 4.3.29 直島町①

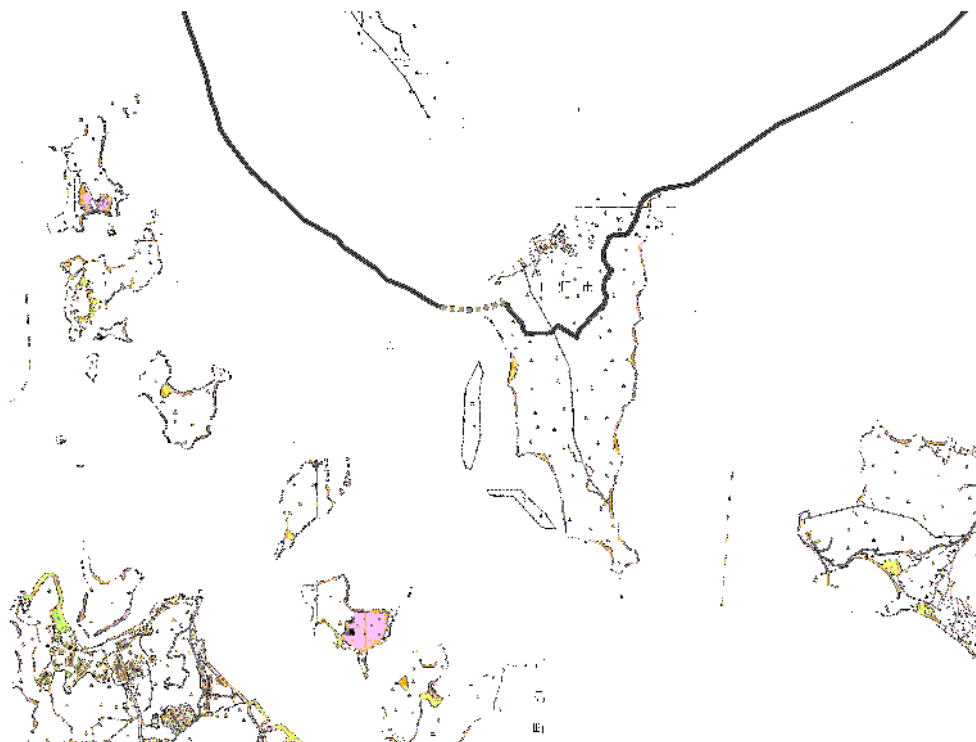
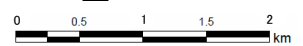


图 4.3.30 直島町②

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



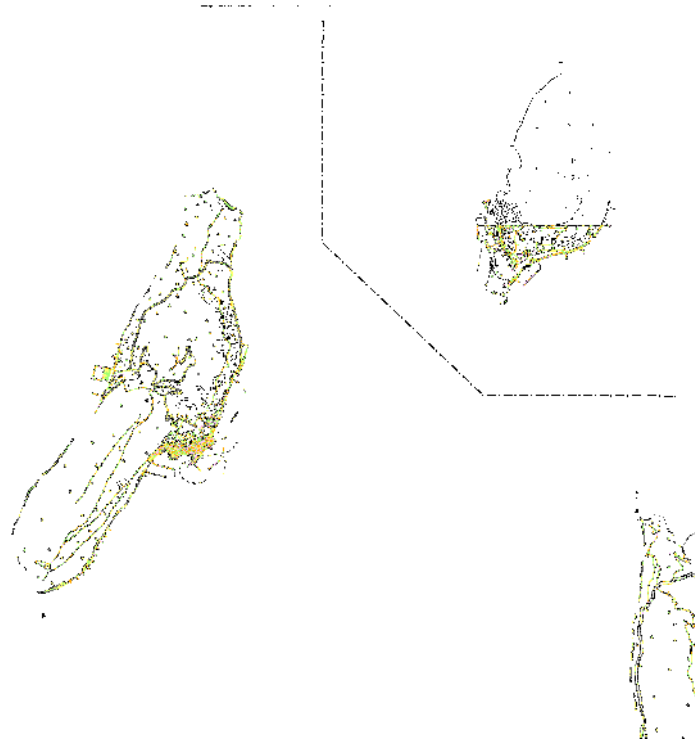


図 4.3.31 高松市島しょ部

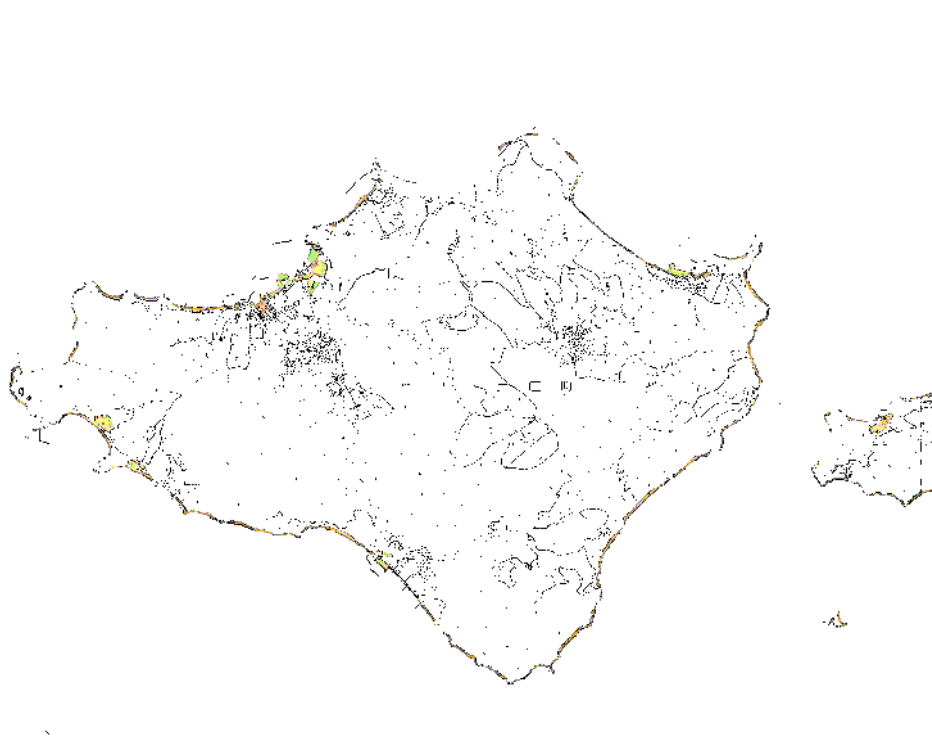


図 4.3.32 土庄町①

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3

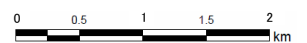




图 4.3.33 土庄町②

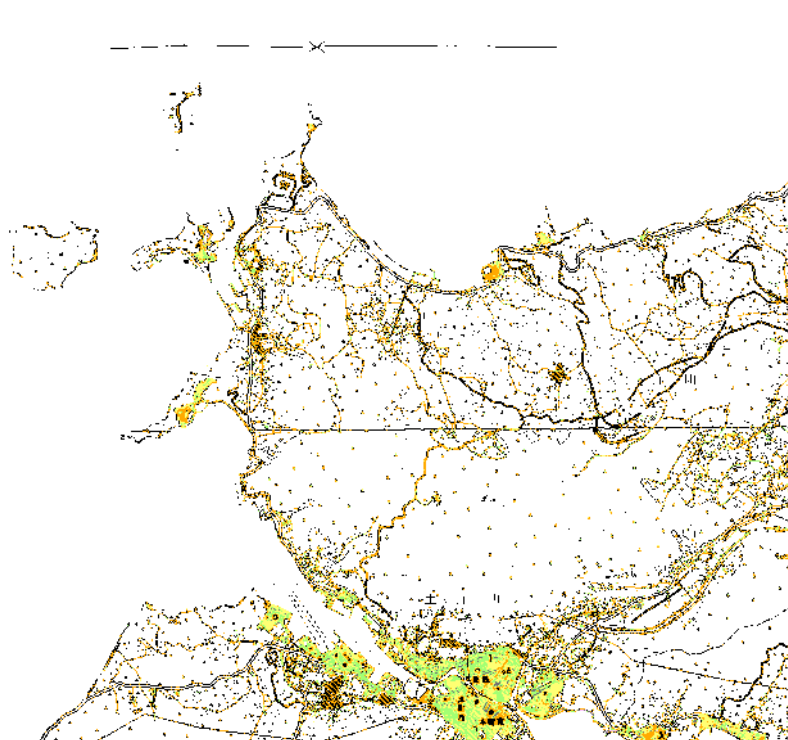


图 4.3.34 土庄町③

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



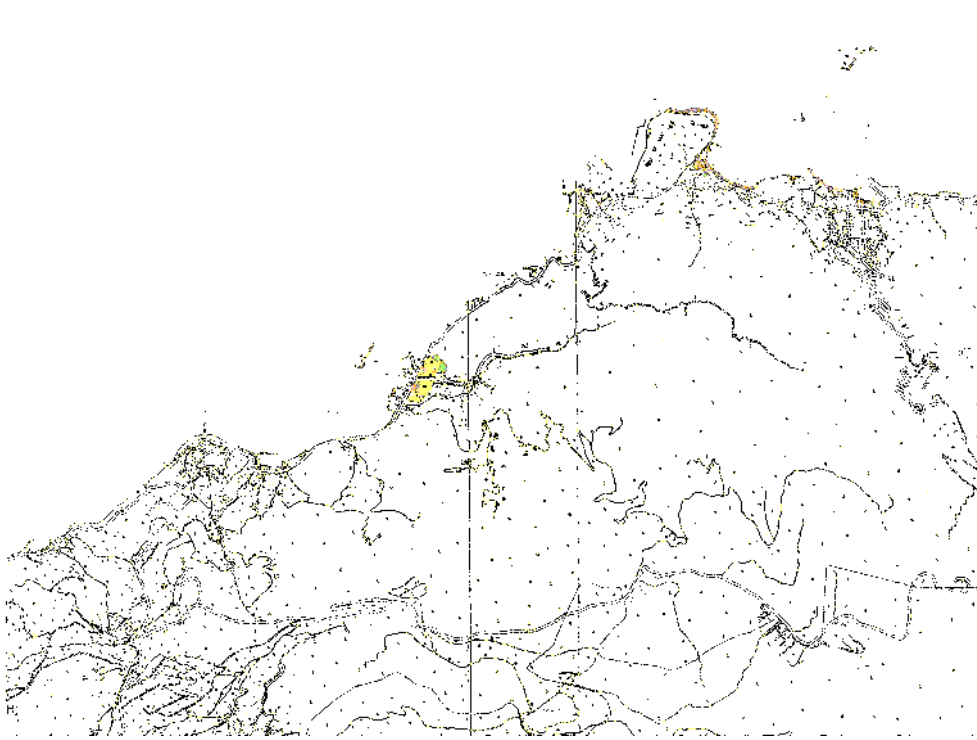


图 4.3.35 土庄町④

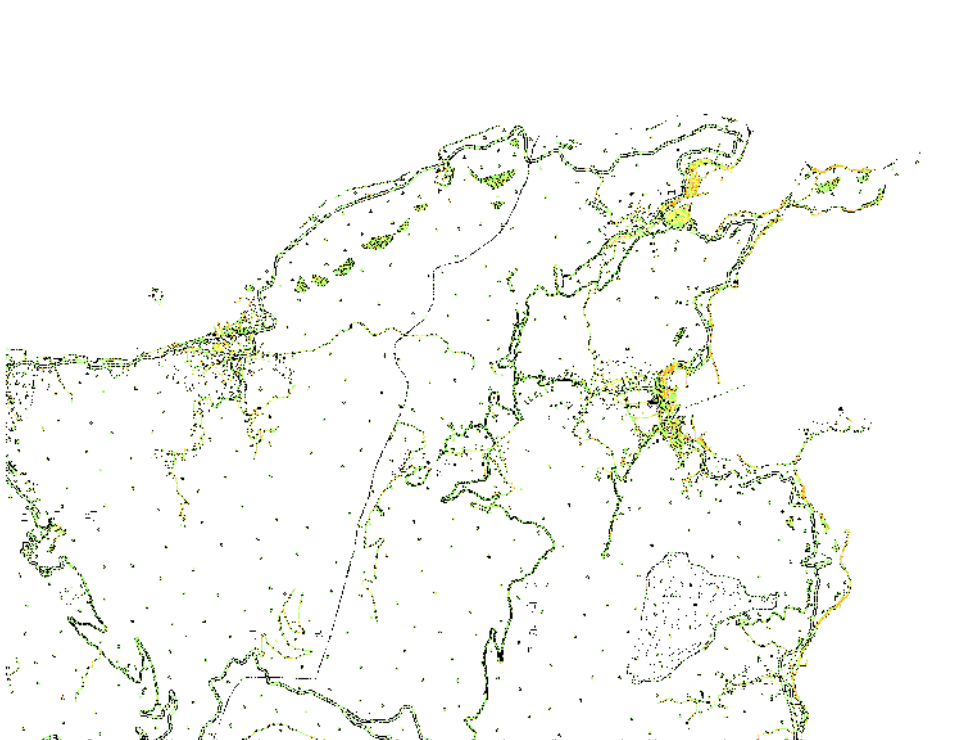


图 4.3.36 土庄町⑤・小豆島町①

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



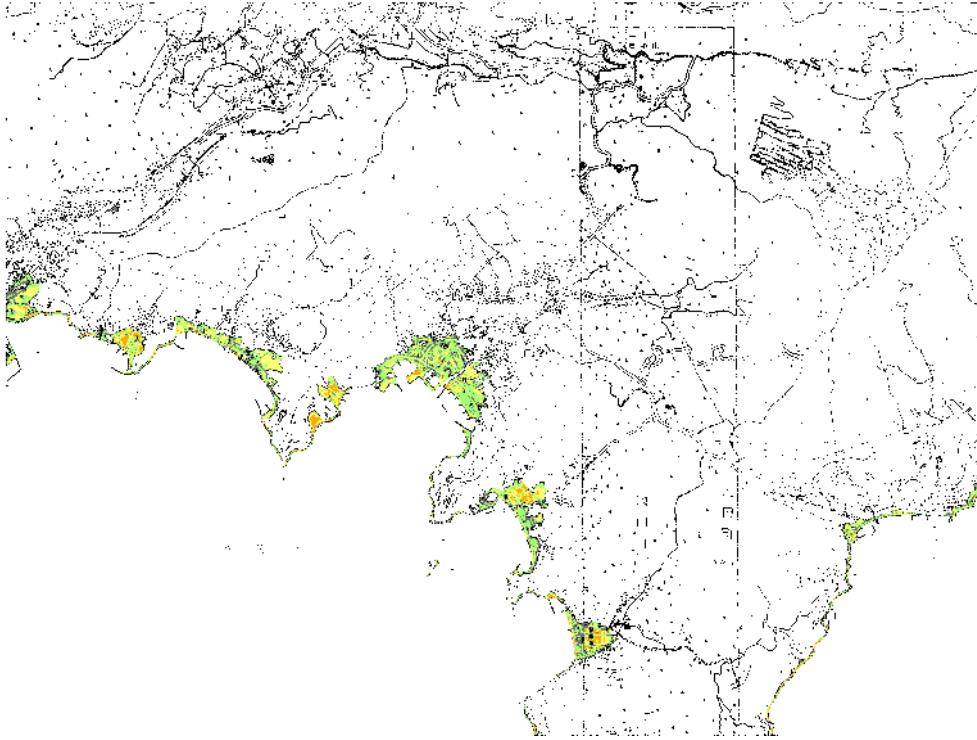


图 4.3.37 小豆島町②

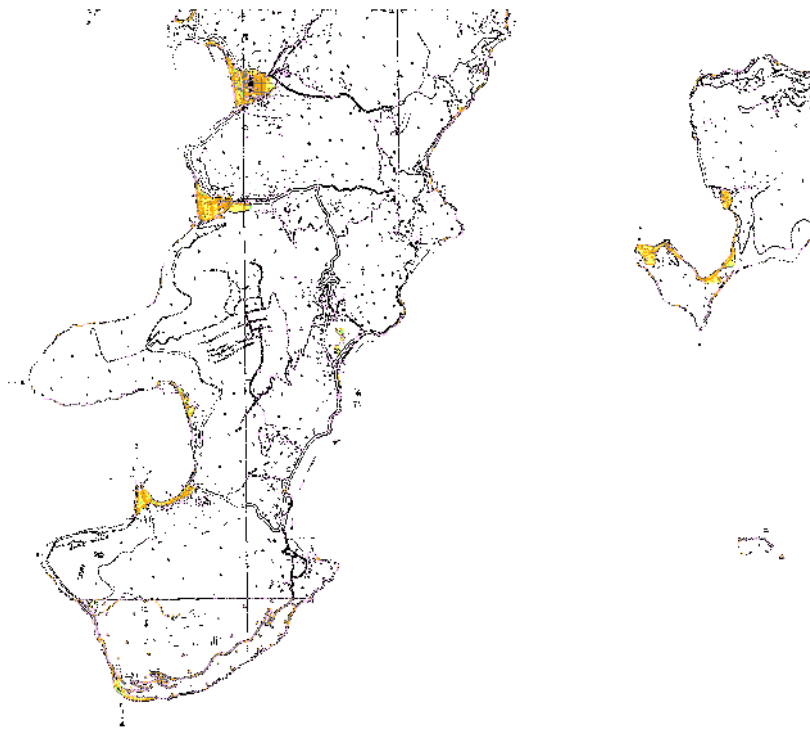
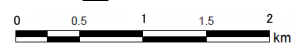


图 4.3.38 小豆島町③

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



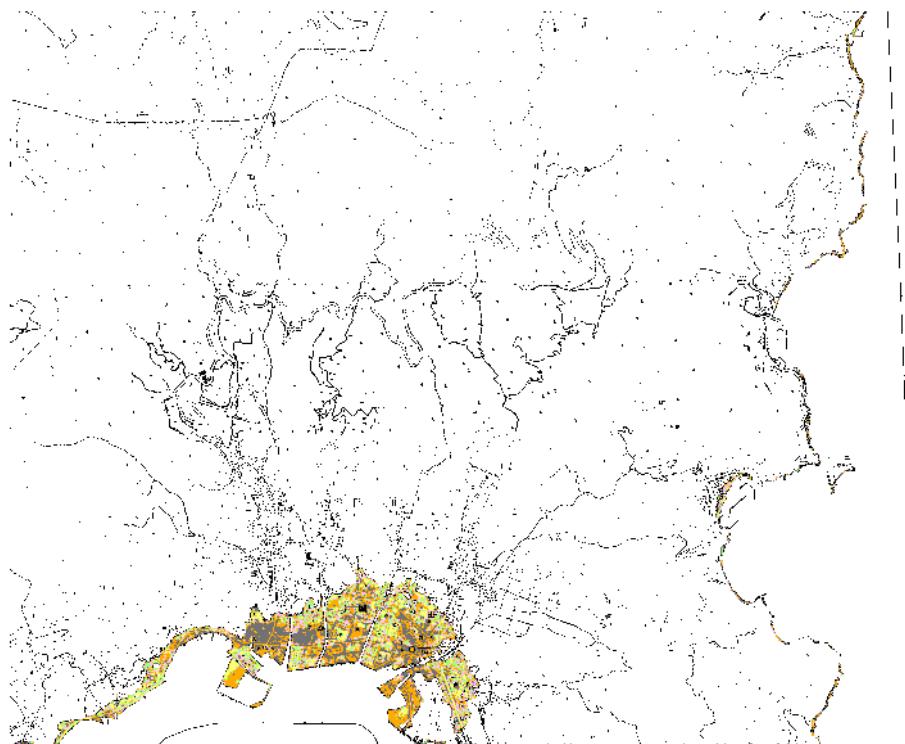


图 4.3.39 小豆島町④

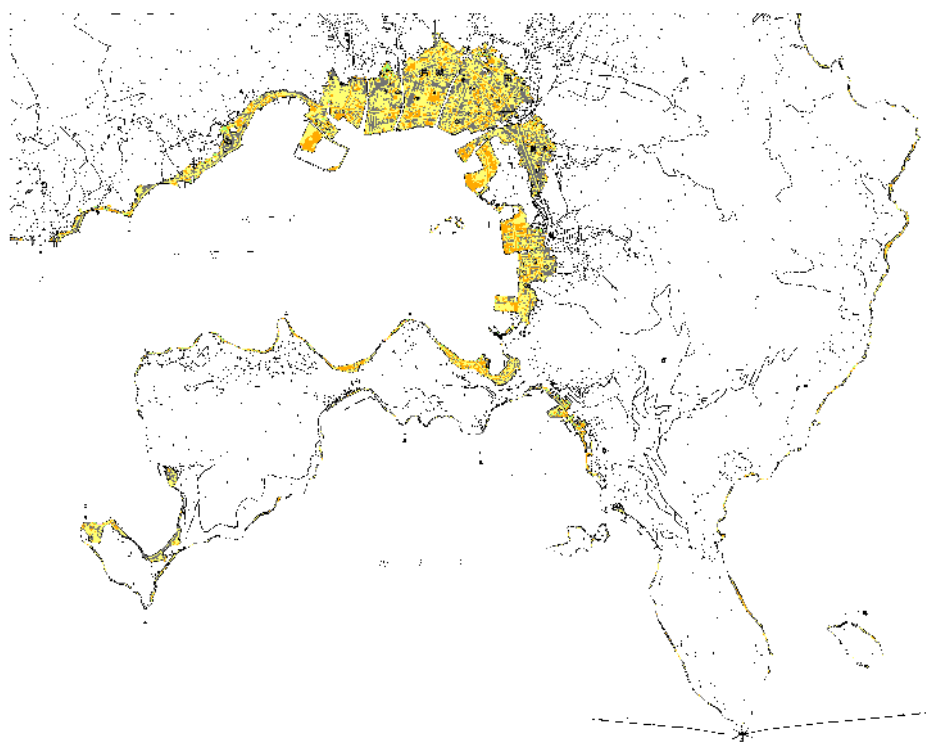


图 4.3.40 小豆島町⑤

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



4.3.2 南海トラフの発生頻度の高い地震の津波

(1) 津波の概要

南海トラフで発生する発生頻度の高い津波は、四国沿岸域から、紀伊水道、豊後水道を通じて瀬戸内海に侵入し、地震発生後約 90 分で第 1 波が鳴門海峡を通過し、東かがわ市に到達する。

津波浸水想定結果を見ると、沿岸域に 1m～2m の津波が来襲するが、津波浸水深が小さいため、大きな被害は受けない可能性がある。

(2) 津波浸水想定区域図

津波浸水想定図は、採用モデルにおける浸水深（浸水する深さ）の最大値を想定区域図として示す。津波浸水想定図は、採用モデルにおける浸水深（浸水する深さ）の最大値を想定区域図として示す。なお、この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 25,000（地図画像）を複製したものである。（承認番号 平成 24 情複、第 930 号）(C)Esri Japan

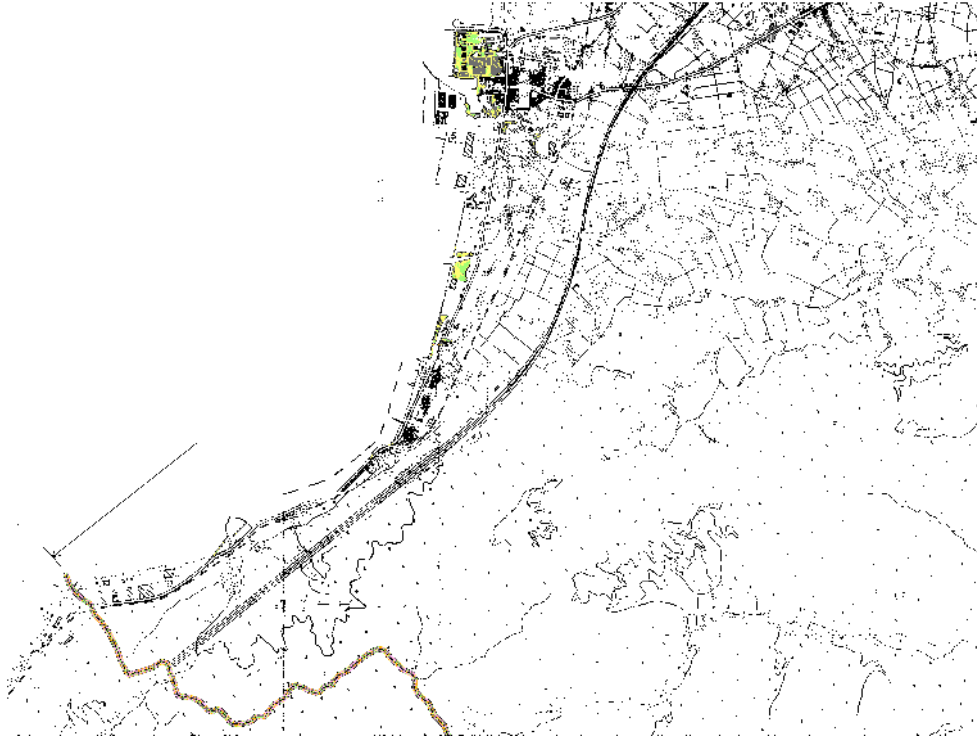


图 4.3.41 观音寺市①



图 4.3.42 观音寺市②・伊吹島

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3

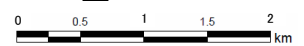




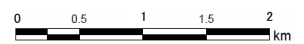
图 4.3.43 观音寺市③



图 4.3.44 三豊市①

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



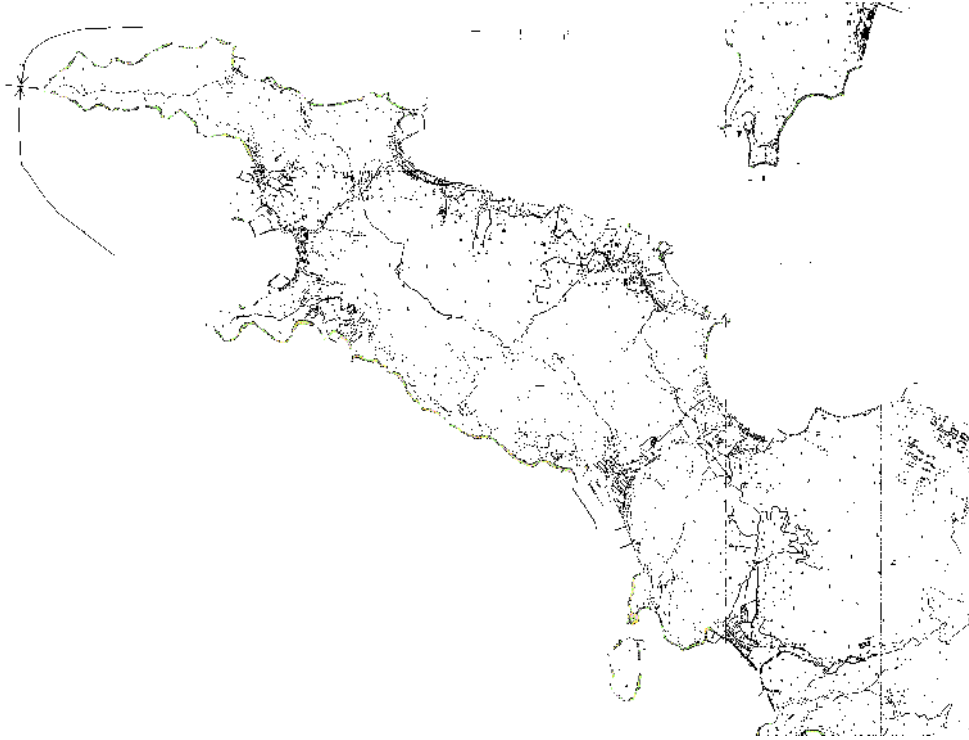


图 4.3.45 三豐市②



图 4.3.46 三豐市③

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3

0 0.5 1 1.5 2 km



图 4.3.47 多度津町



图 4.3.48 丸亀市・宇多津町①

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



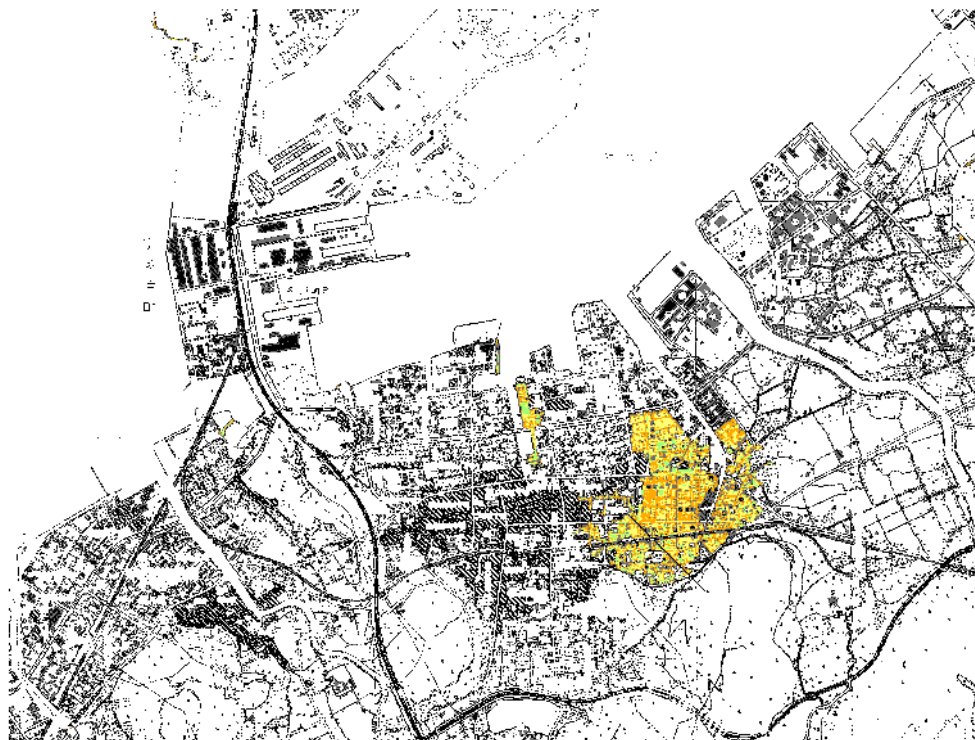


图 4.3.49 宇多津町②・坂出市①



图 4.3.50 坂出市②

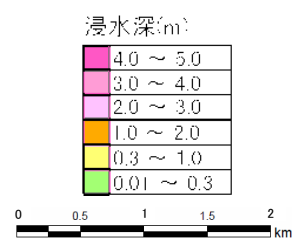




图 4.3.51 坂出市③



图 4.3.52 高松市①

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3





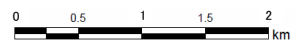
图 4.3.53 高松市②



图 4.3.54 高松市③

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



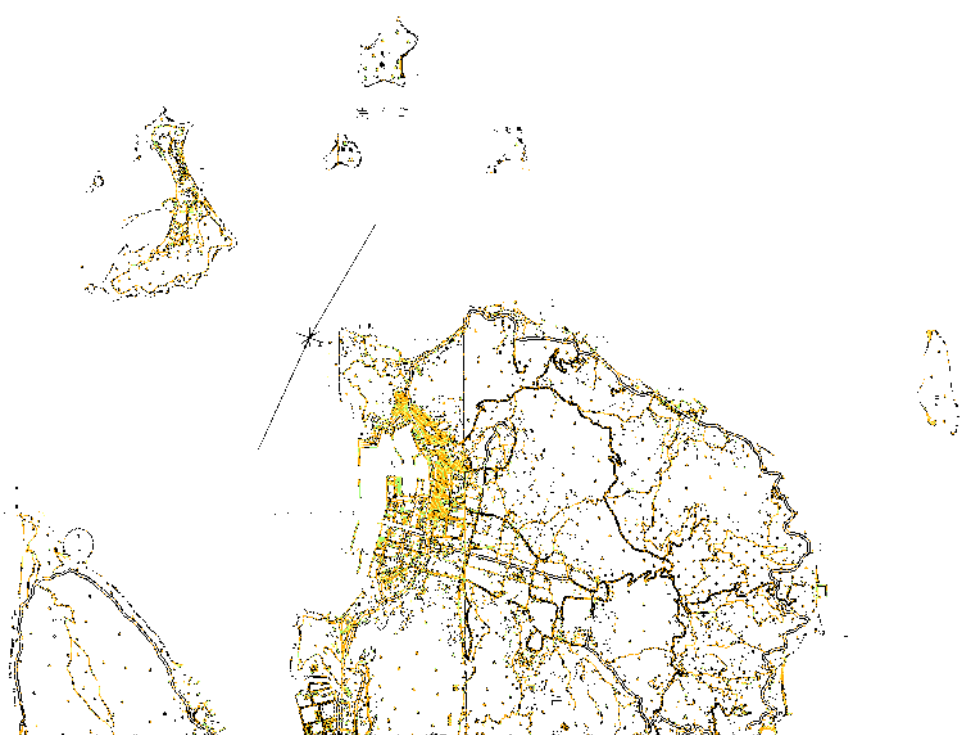


图 4.3.55 高松市④

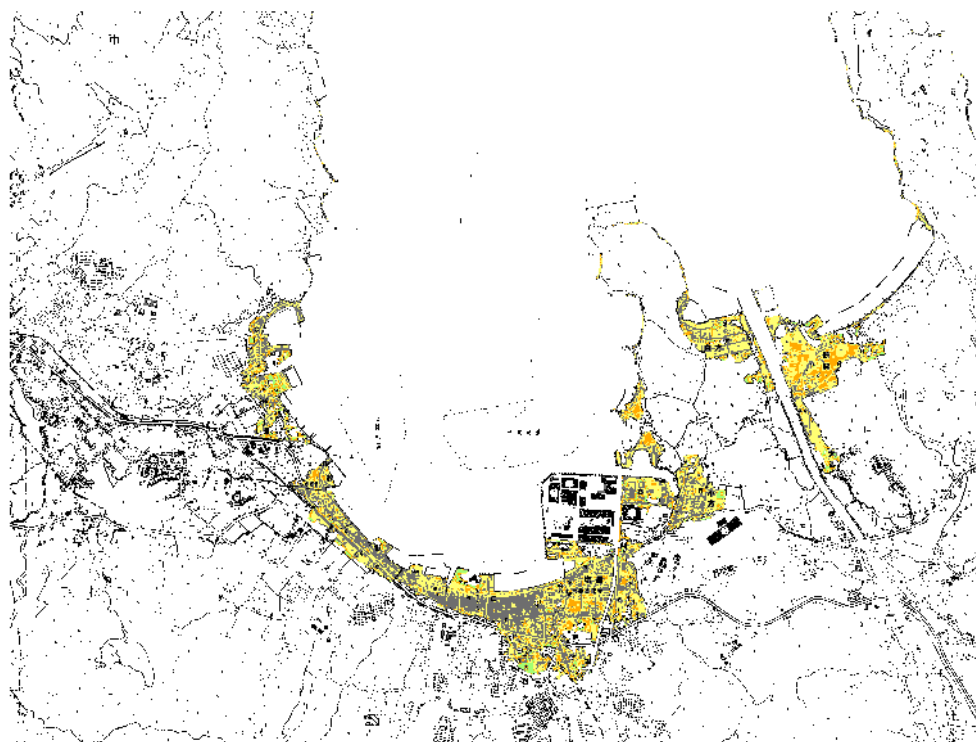


图 4.3.56 高松市⑤・さぬき市①

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3





図 4.3.57 さぬき市②

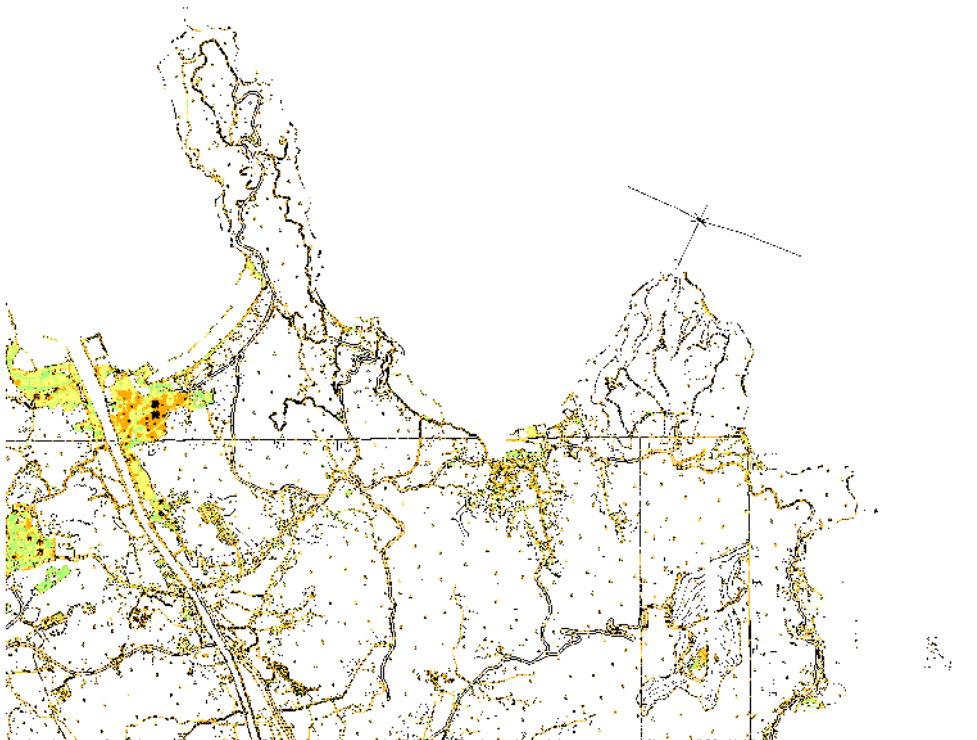


図 4.3.58 さぬき市③

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3

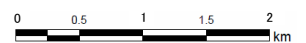




図 4.3.59 さぬき市④



図 4.3.60 東かがわ市①

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



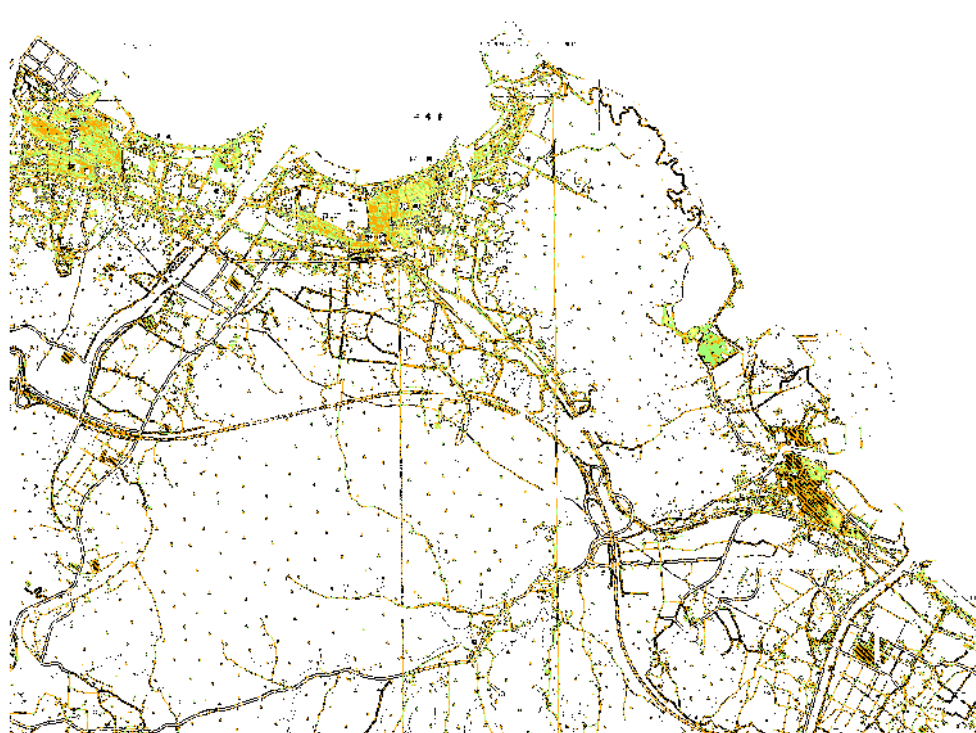


図 4.3.61 東かがわ市②

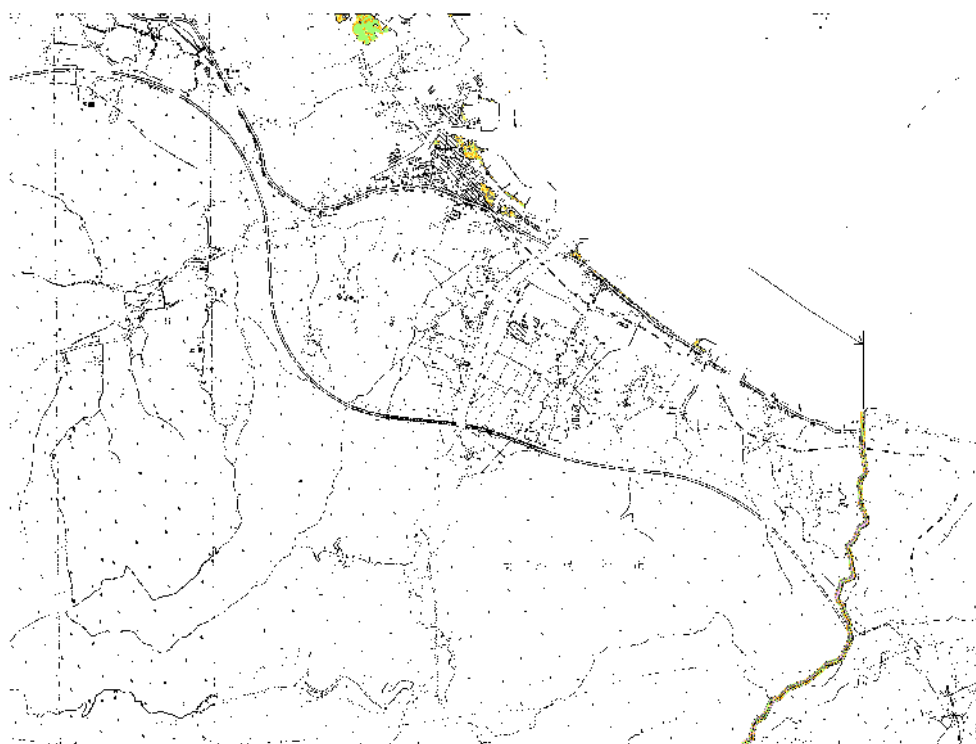


図 4.3.62 東かがわ市③

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3





図 4.3.63 三豊市島しょ部



図 4.3.64 多度津町島しょ部

浸水深(m)

	4.0 ~ 5.0
	3.0 ~ 4.0
	2.0 ~ 3.0
	1.0 ~ 2.0
	0.3 ~ 1.0
	0.01 ~ 0.3





図 4.3.65 丸亀市島しょ部①



図 4.3.66 丸亀市島しょ部②

浸水深(m)

	4.0 ~ 5.0
	3.0 ~ 4.0
	2.0 ~ 3.0
	1.0 ~ 2.0
	0.3 ~ 1.0
	0.01 ~ 0.3



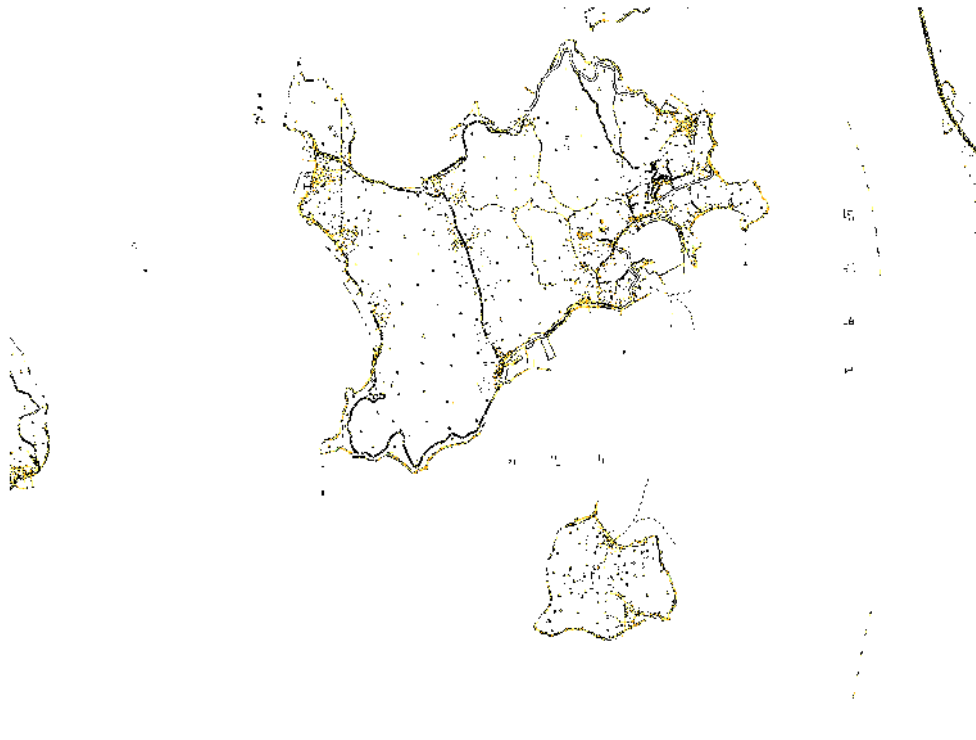


図 4.3.67 丸亀市島しょ部③

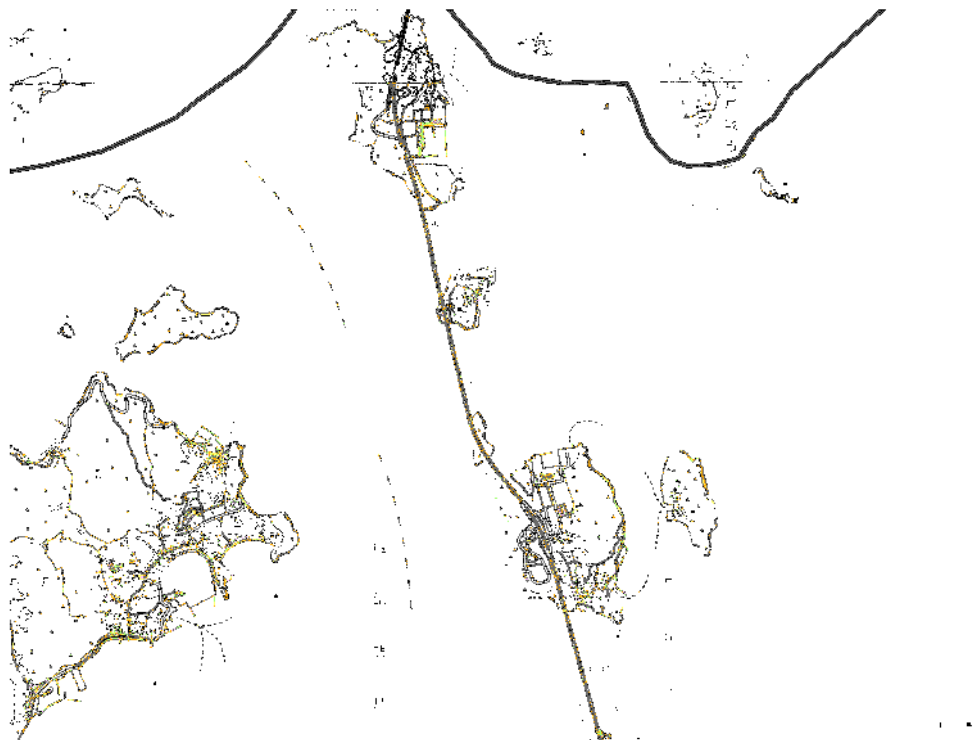


図 4.3.68 坂出市島しょ部

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



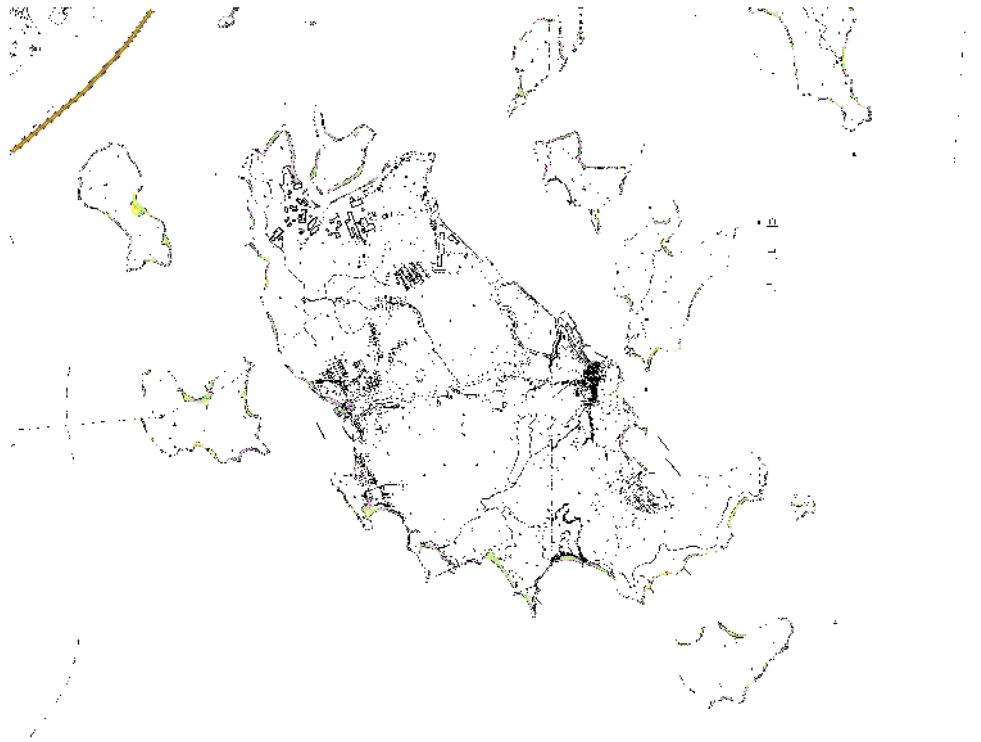


图 4.3.69 直島町①

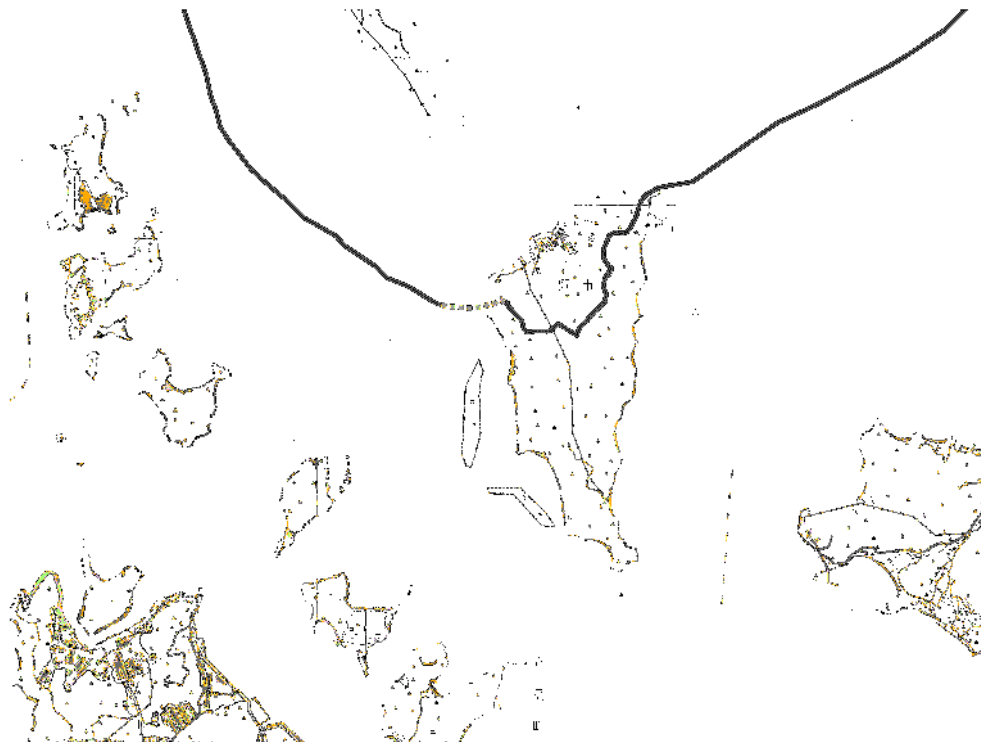
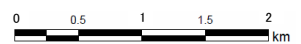


图 4.3.70 直島町②

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



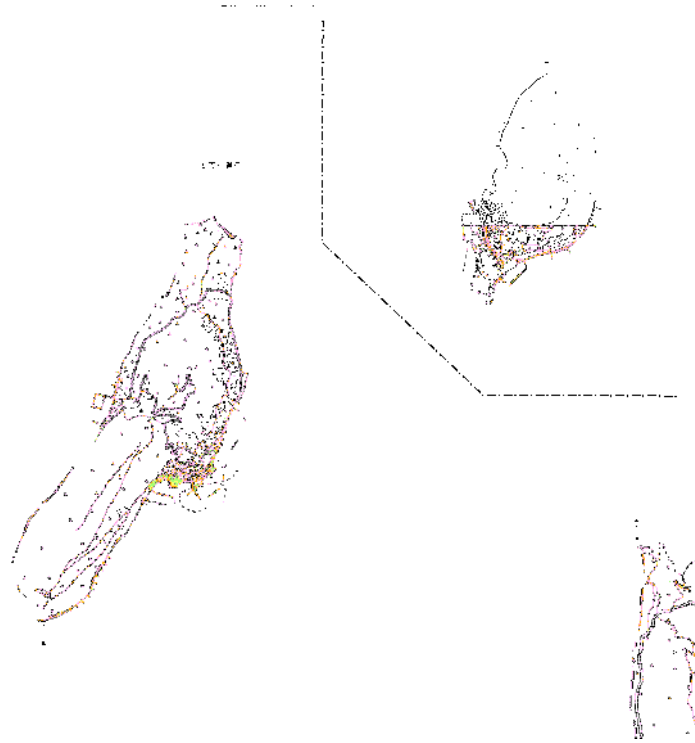


図 4.3.71 高松市島しょ部

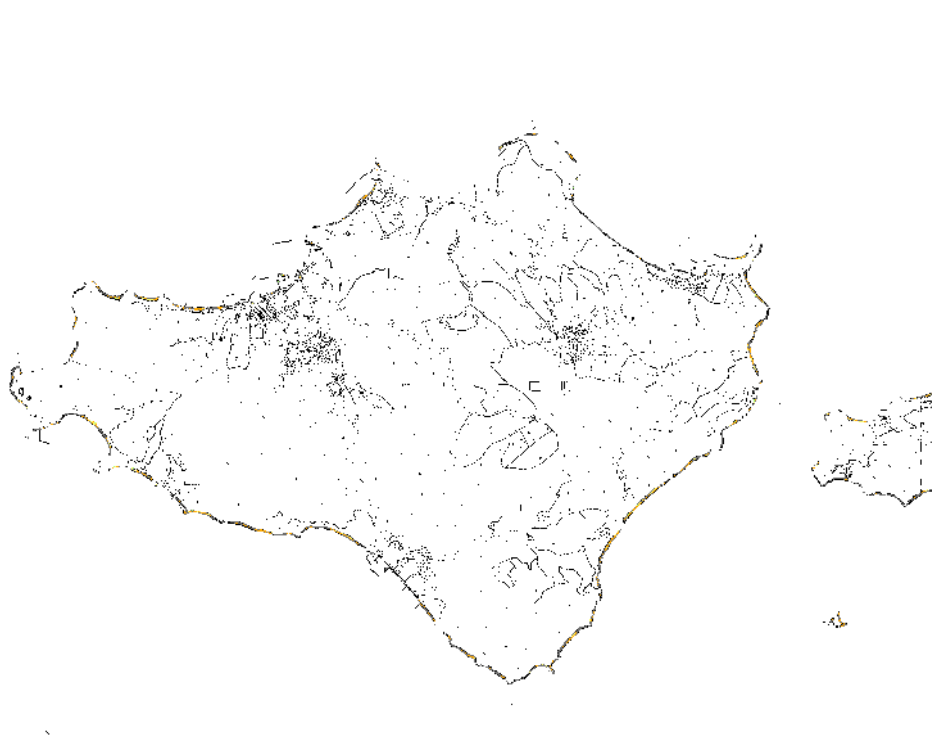


図 4.3.72 土庄町①

浸水深(m)

	4.0 ~ 5.0
	3.0 ~ 4.0
	2.0 ~ 3.0
	1.0 ~ 2.0
	0.3 ~ 1.0
	0.01 ~ 0.3

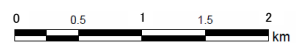




图 4.3.73 土庄町②

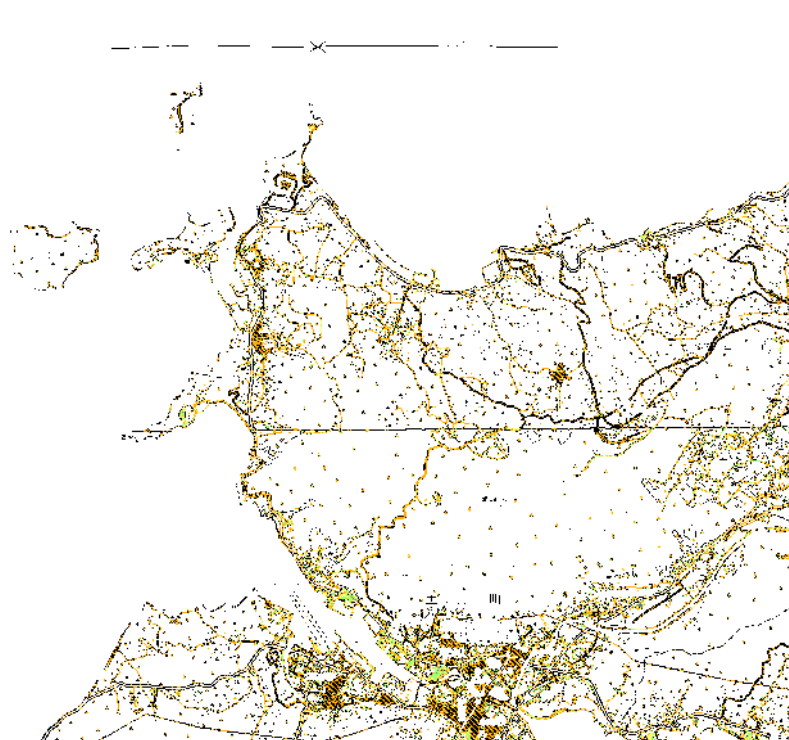


图 4.3.74 土庄町③

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3



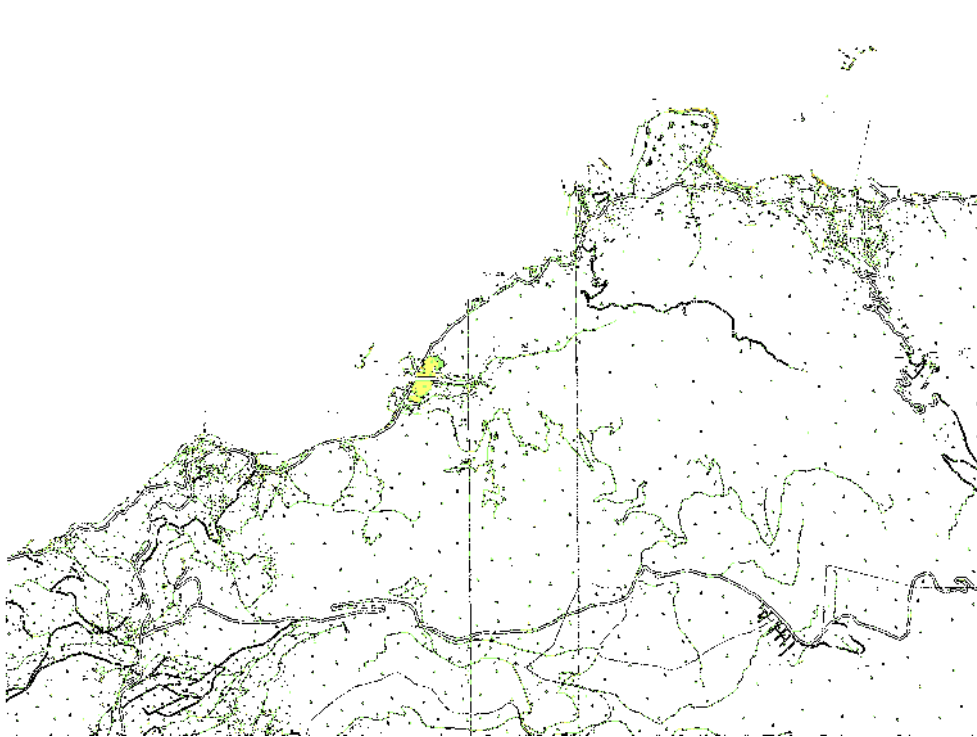


图 4.3.75 土庄町④



图 4.3.76 土庄町⑤・小豆島町①

浸水深(m):

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3

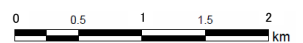




图 4.3.77 小豆島町②

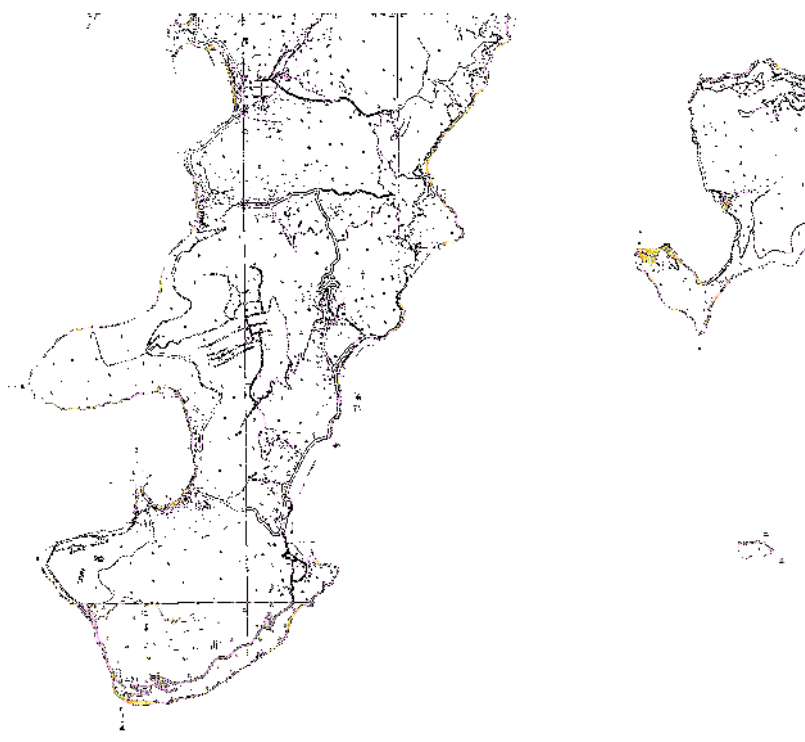


图 4.3.78 小豆島町③

浸水深(m)

	4.0 ~ 5.0
	3.0 ~ 4.0
	2.0 ~ 3.0
	1.0 ~ 2.0
	0.3 ~ 1.0
	0.01 ~ 0.3



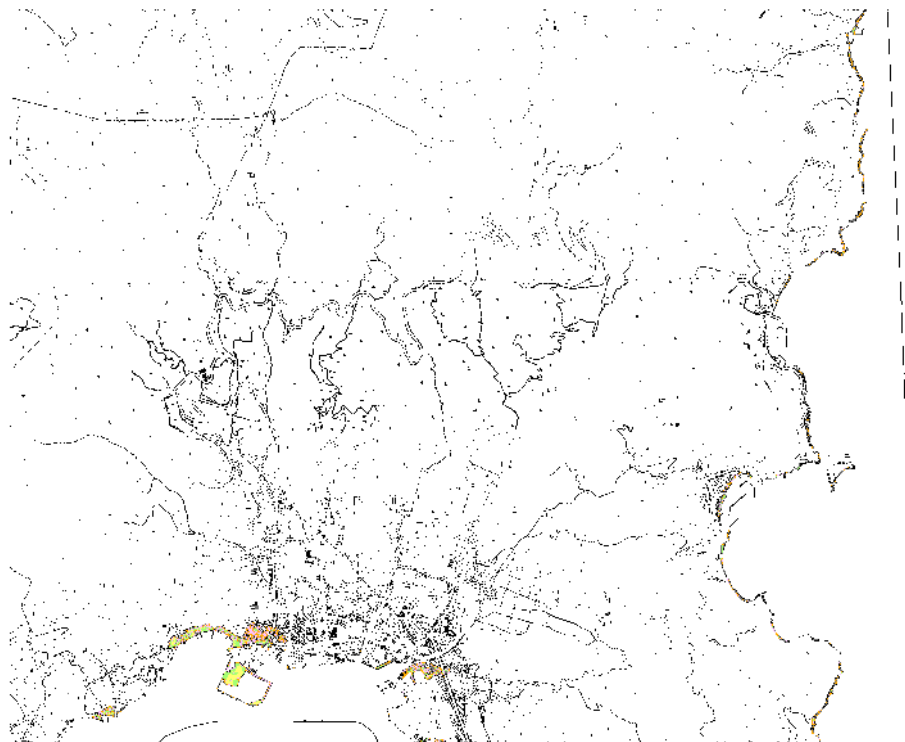


图 4.3.79 小豆島町④

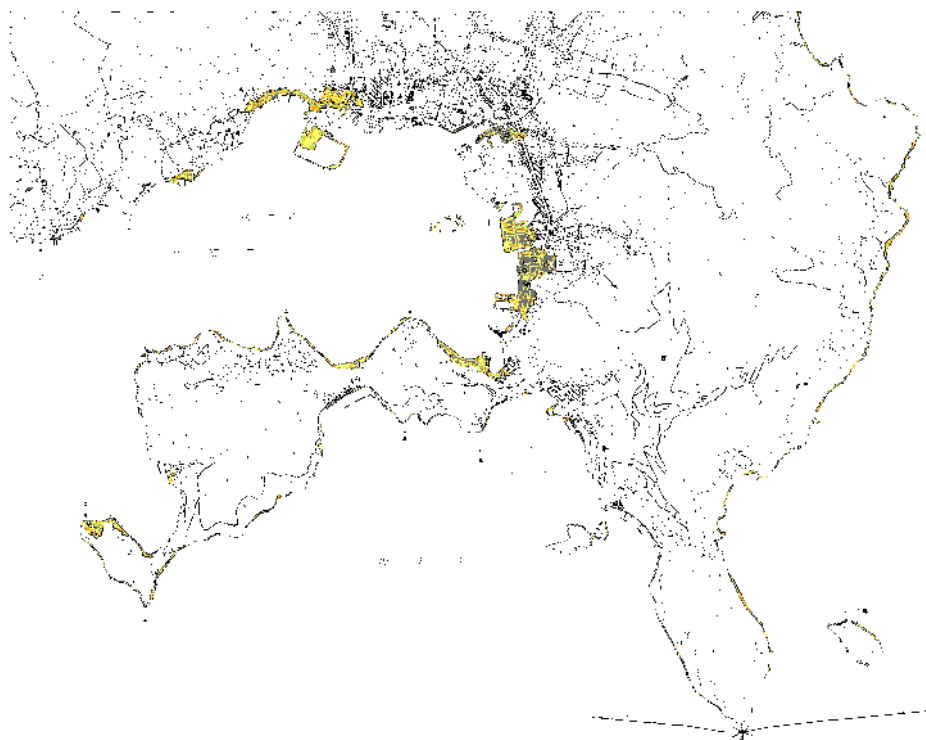


图 4.3.80 小豆島町⑤

浸水深(m)

4.0 ~ 5.0
3.0 ~ 4.0
2.0 ~ 3.0
1.0 ~ 2.0
0.3 ~ 1.0
0.01 ~ 0.3

